

00「導入 / 身体 of 赴く ままに まち of 気候風土を感じる」

霧にどんな印象を持っていますか？霧は視界をぼかし、音を奪います。映画やドラマでは幻想的なシーンの演出によく使われ、緊張感や期待感と共にリラックス効果をもたらします。まちにはそれぞれの気候や風土、雰囲気があります。霧によって得られる情報を制限することによってまちのそれぞれの要素と向き合えるのではないのでしょうか。また、それは霧の粗密や使う人の行為によって見えるもの、感じるものが変化するのではないのでしょうか。新たな発見を得ることもできます。霧の中にそれぞれの場所の特徴があり、繋がったり閉ざされたりと曖昧な関係性を形成することができます。その中にお気に入りの場所ができたり、日ごとの気分や使い方によって場所を選ぶことができると考えます。

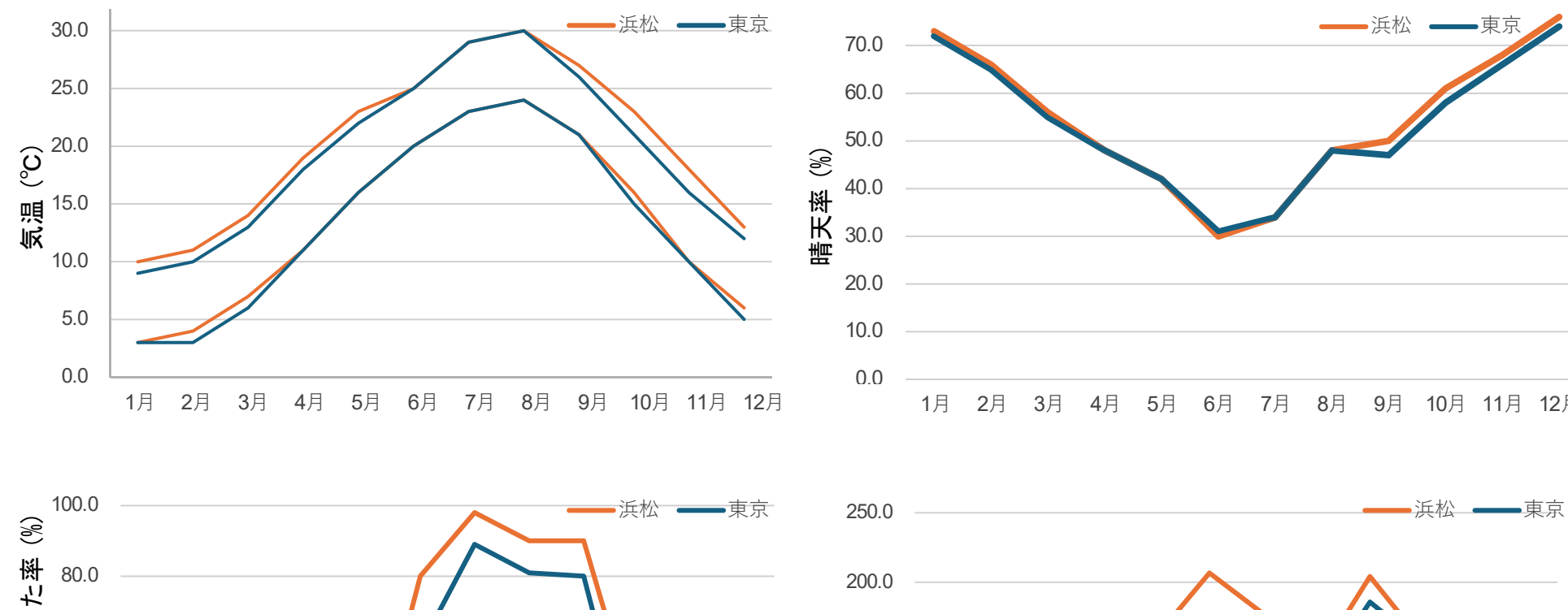
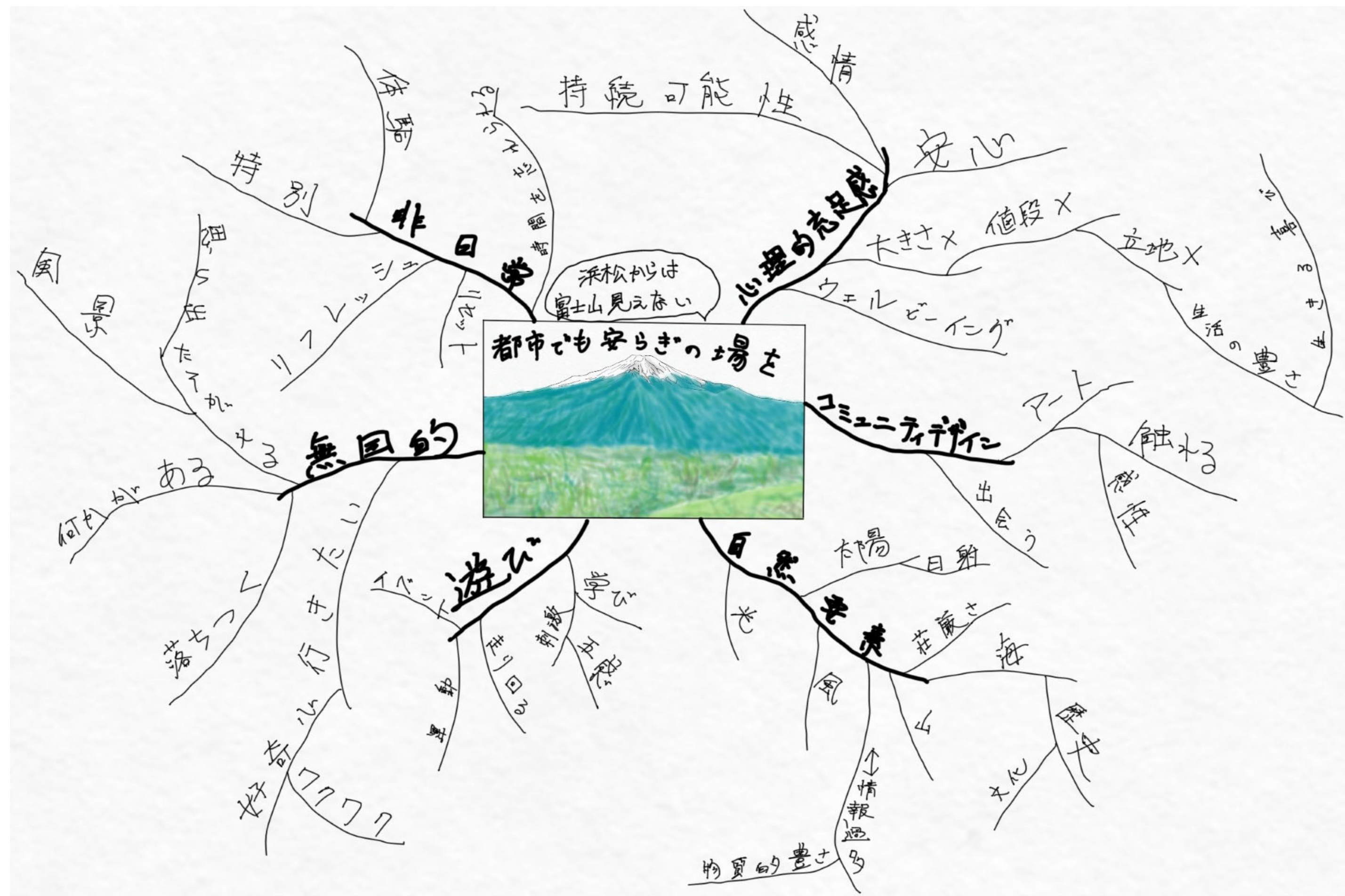
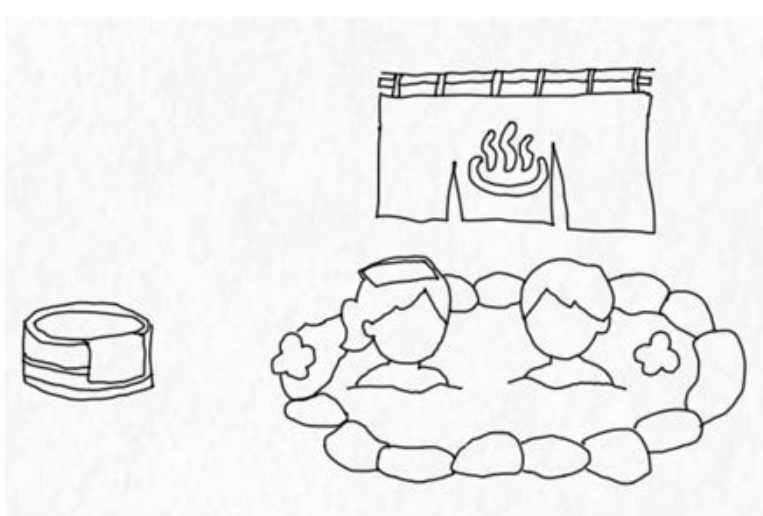
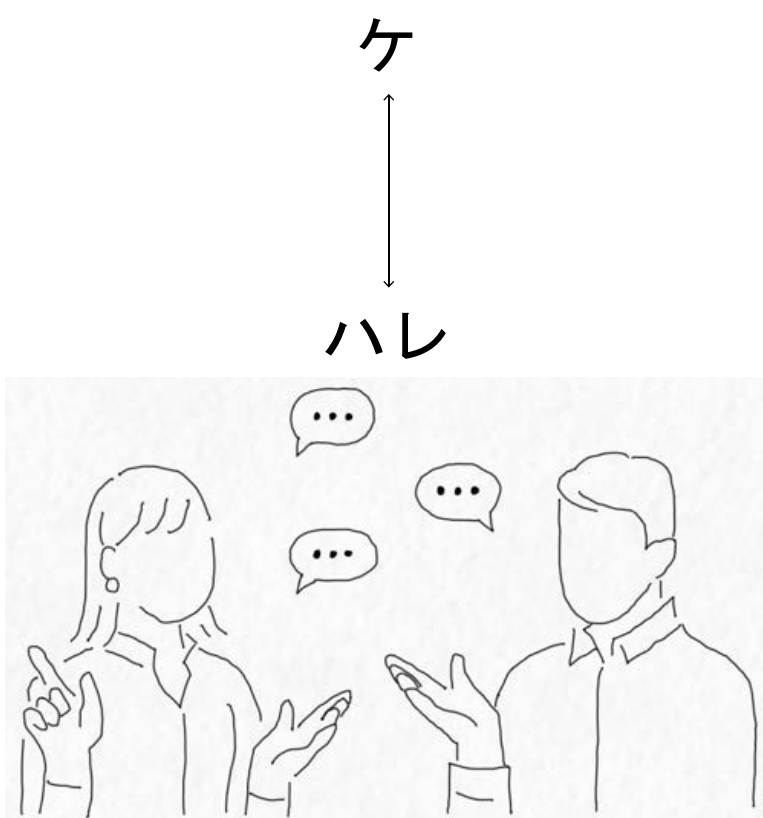
01「背景 / 日常に非日常を」

人間は「ケ→ハレ→ケ」の循環リズムの内に生活しています。こうしたリズムで感情にメリハリをつけながら人間は生活してきました。日々の生活の中で、家と学校、バイトの往復に追われ、時間に縛られる感覚を抱いていました。そんな日常の中で私が求めたのは、自分の「ここ」をリセットできる安らぎのある場所でした。友人との何気ない会話や、遠出、訪れたことのない場所：そうした時間を忘れられる環境が、心の充足につながるのではないかと考えました。また、都市において自然環境や身体感覚を通じた非日常的な体験を提供し、心理的な満足感を得られる空間が、日常の中に生み出せないかという問いが生まれました。

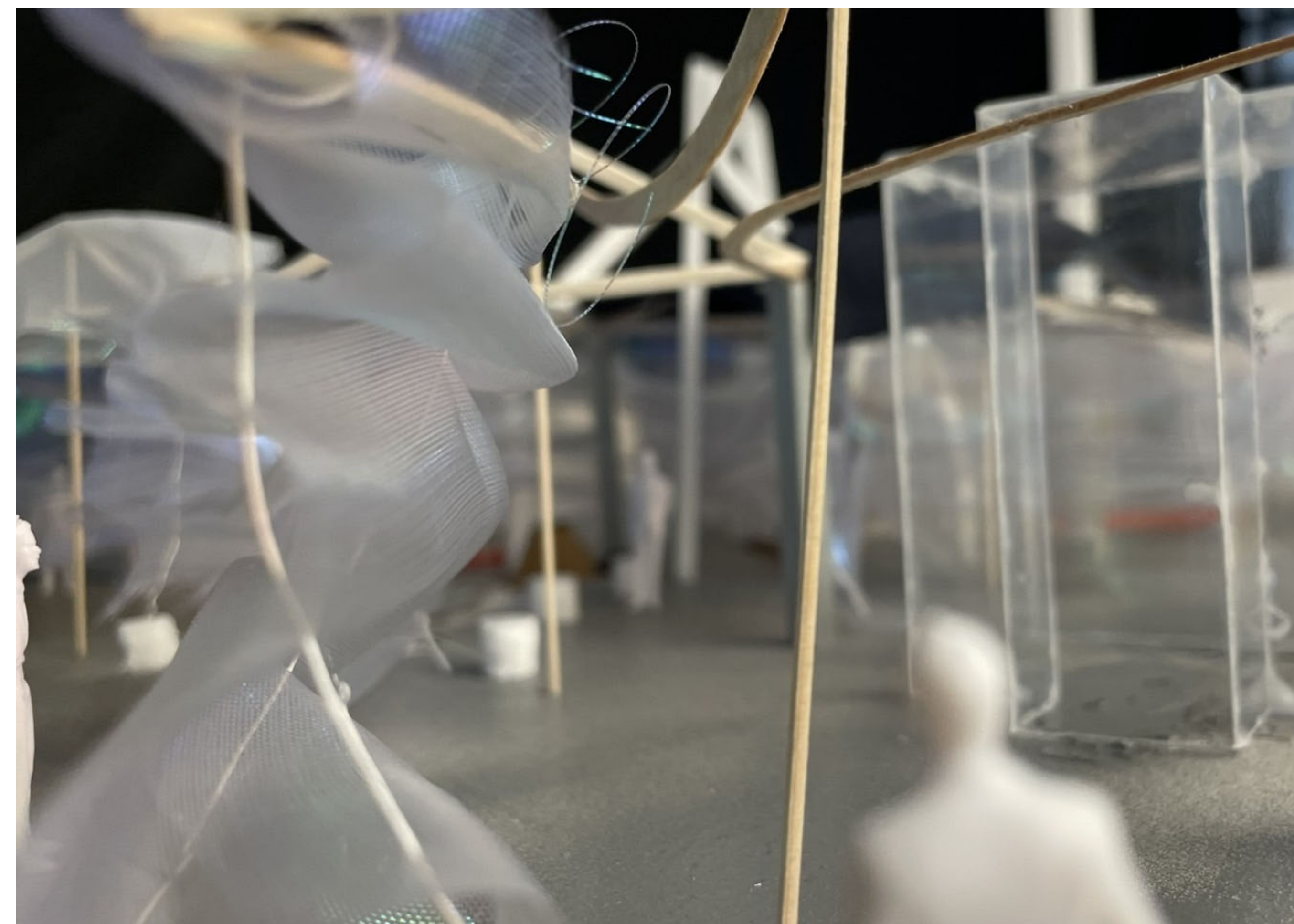
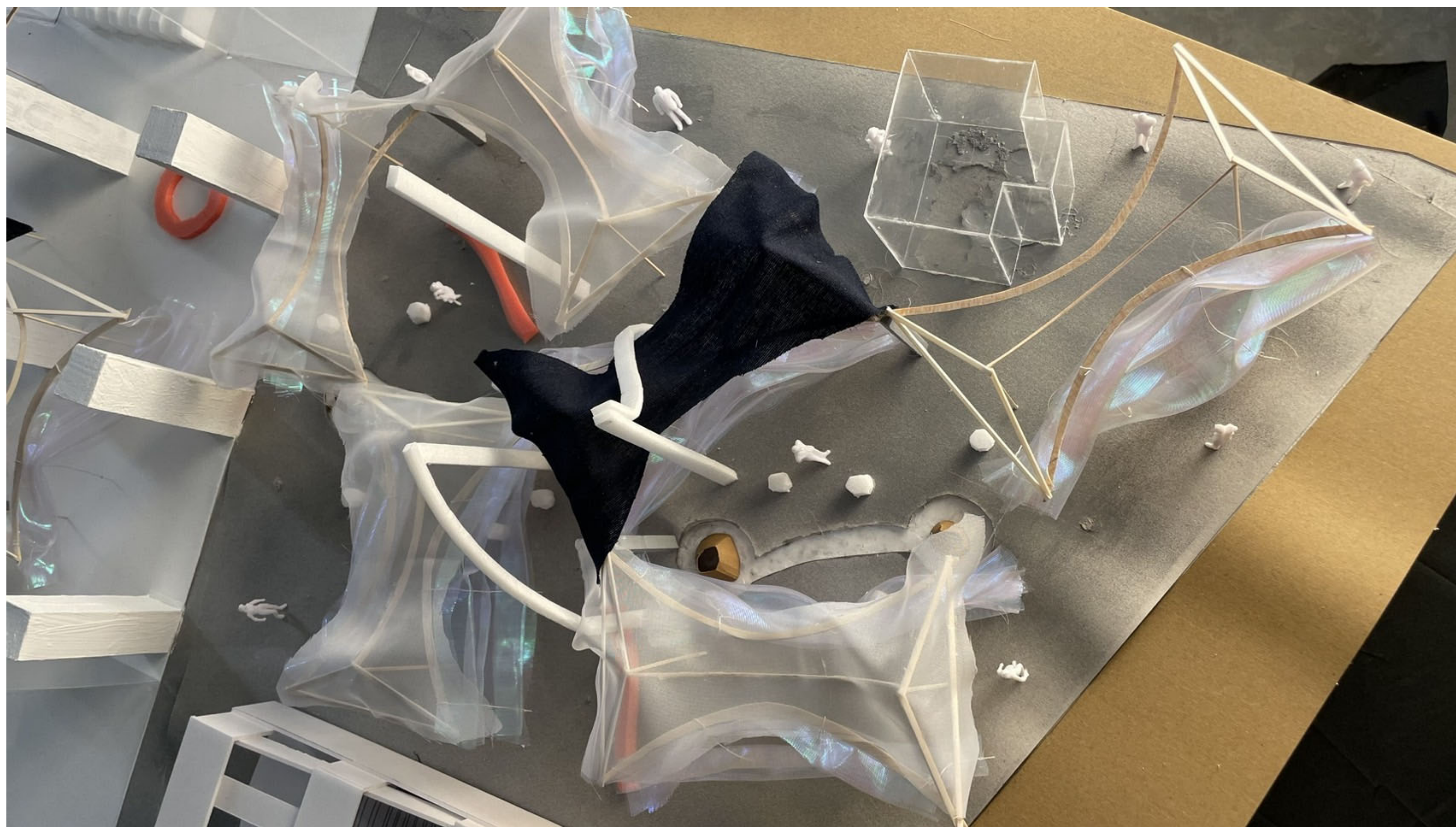
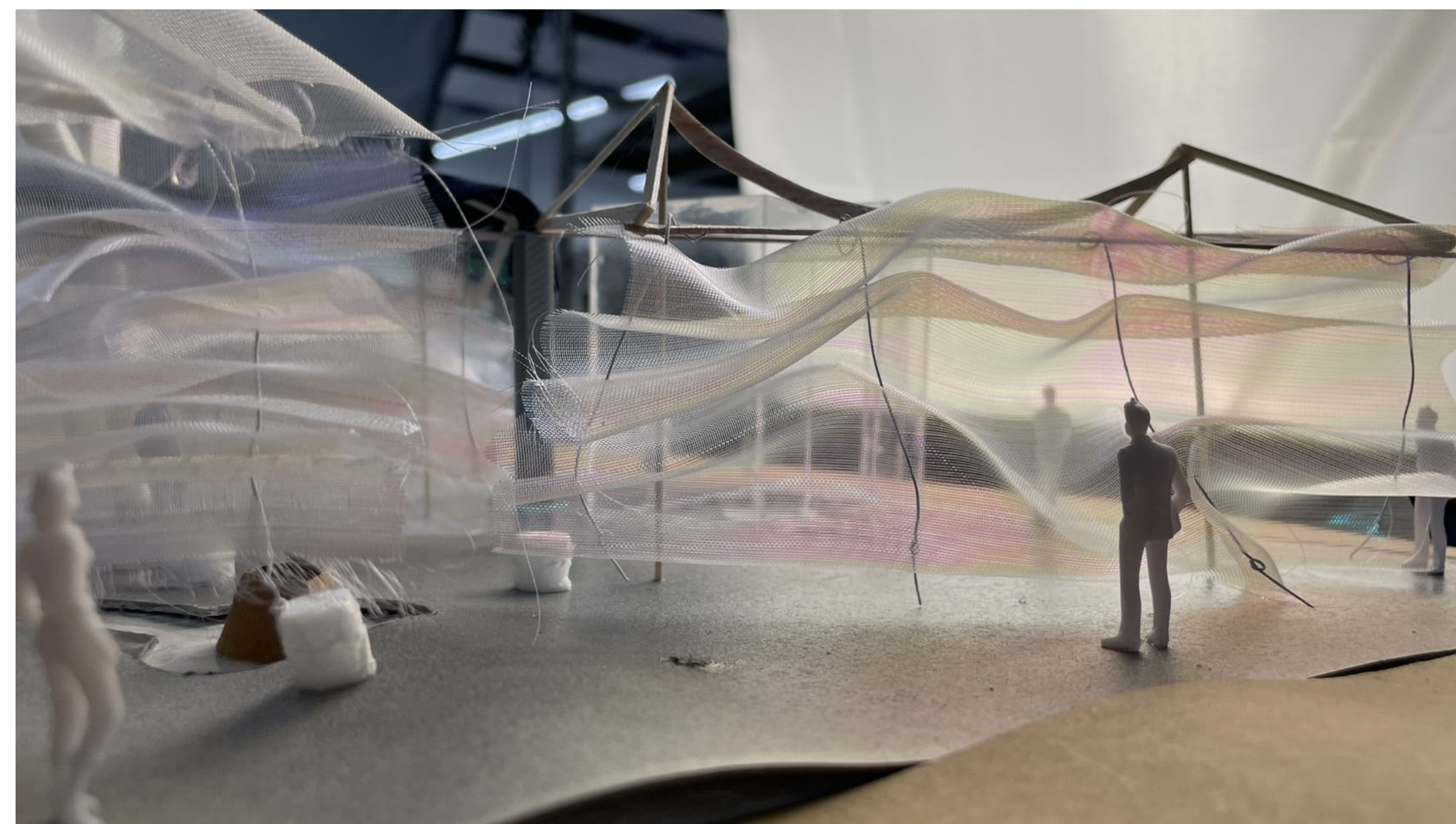
プロジェクト：浜松駅を敷地の対象とします。

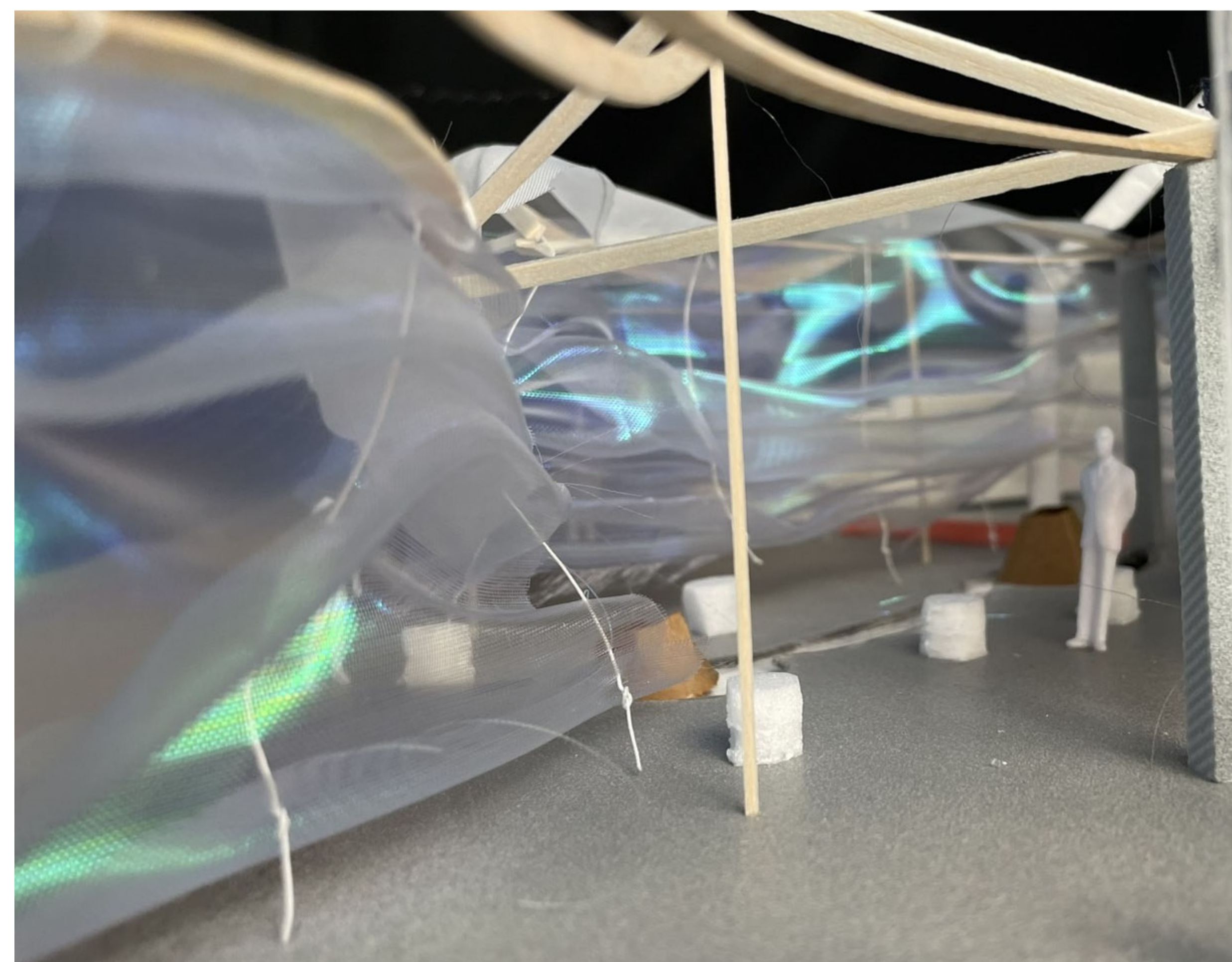
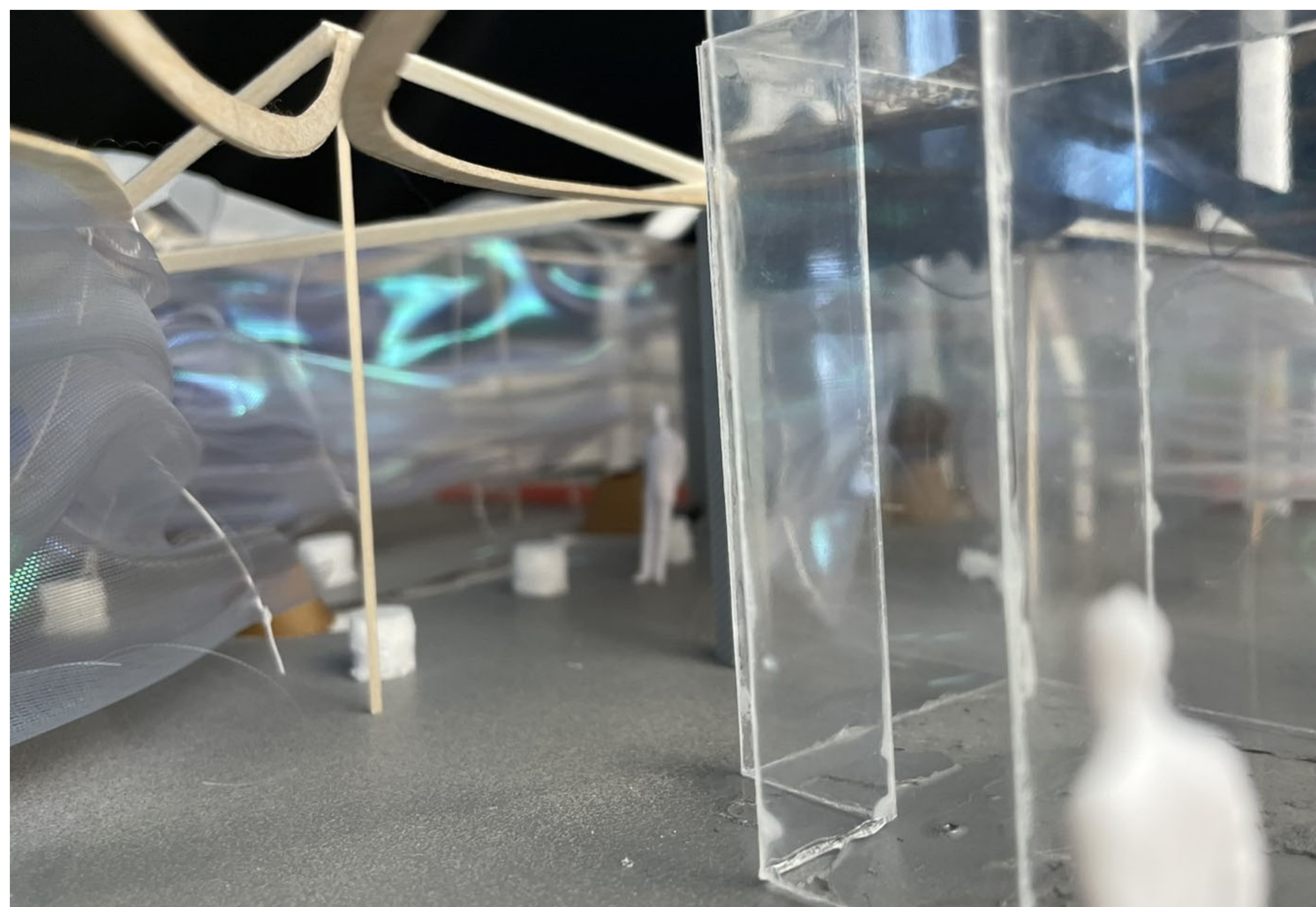
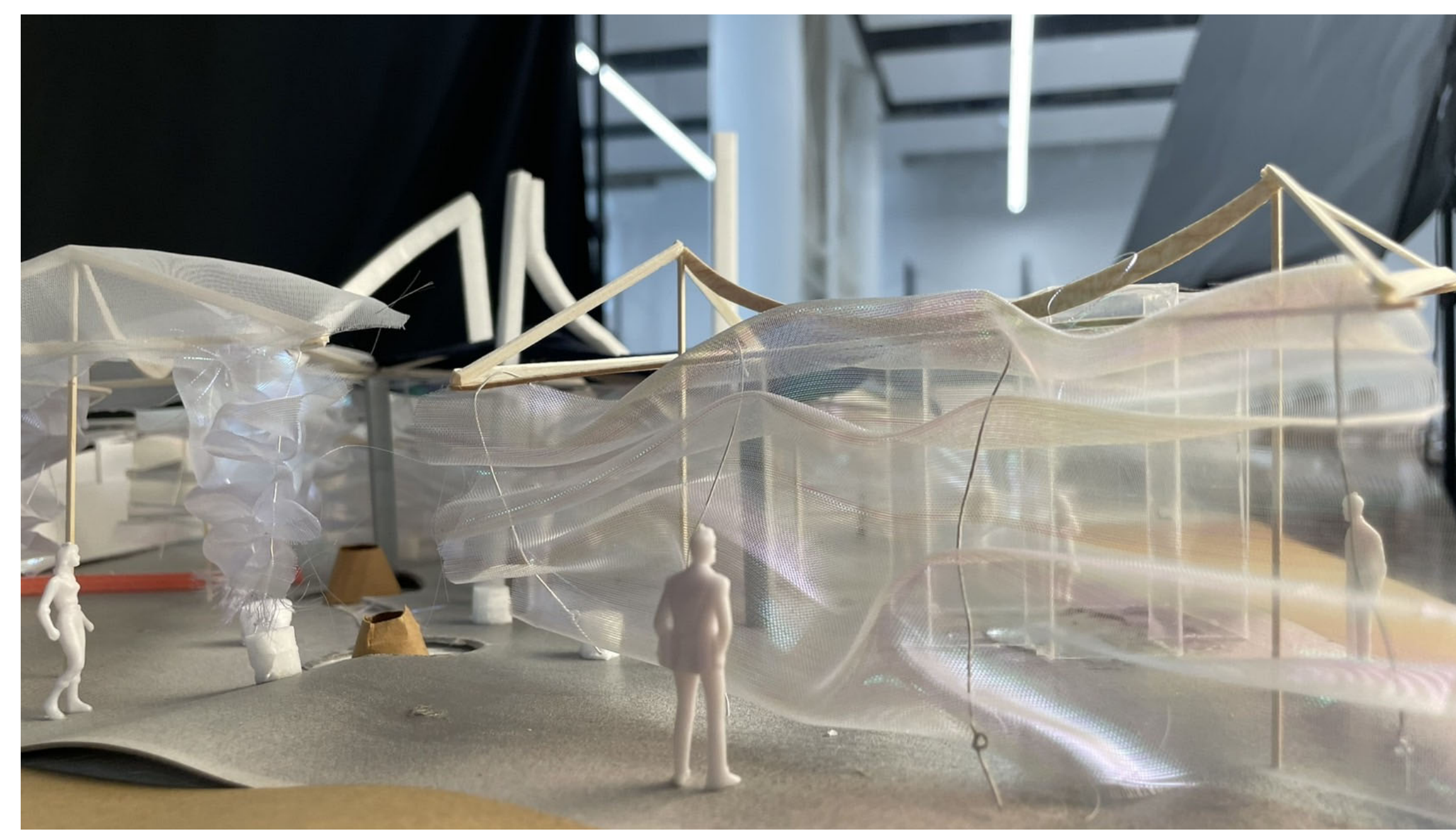
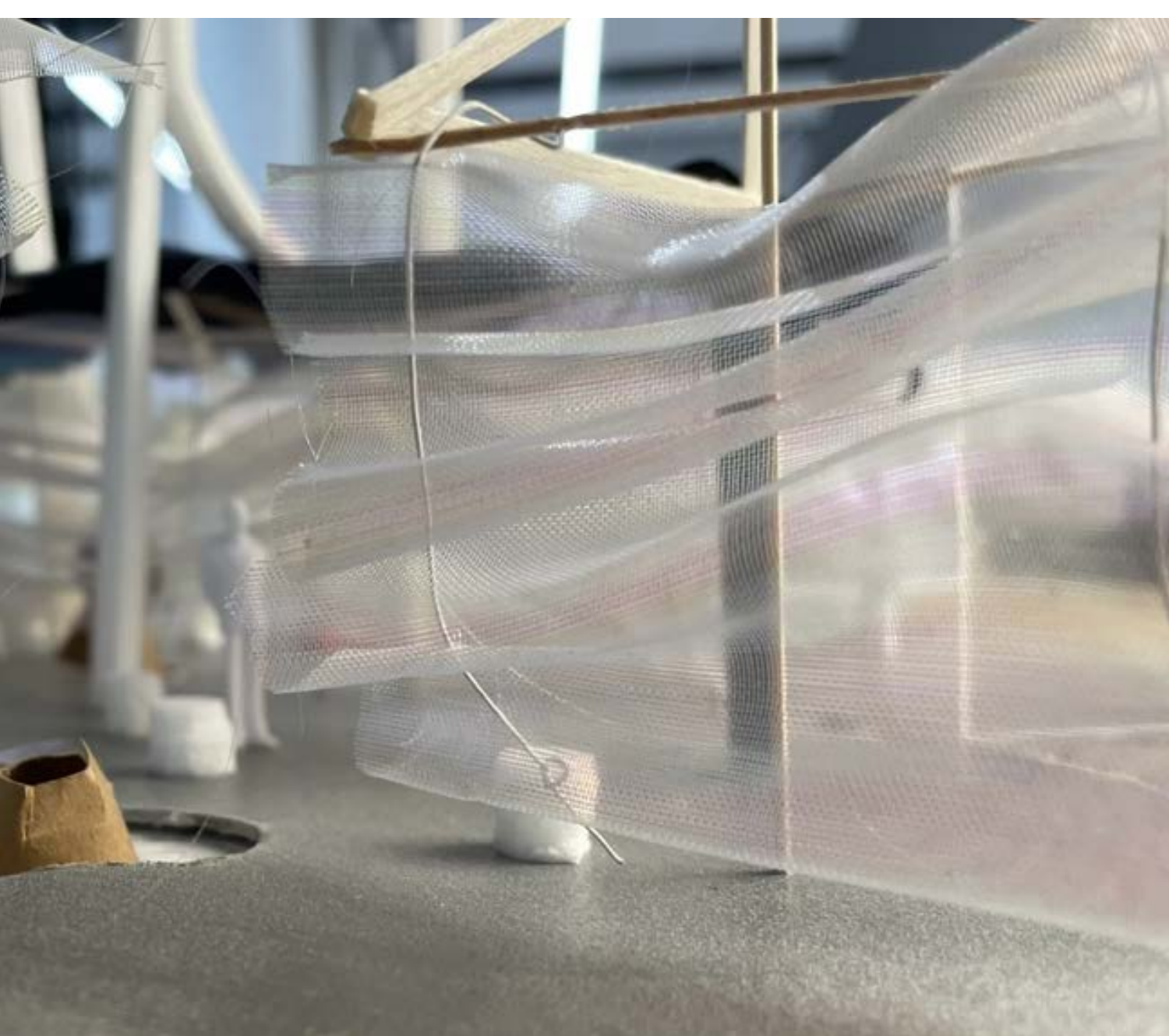
02「敷地 / 機能の拠点からまちの気候風土を感じられる拠点へ」

浜松市は、日本列島のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた都市です。戦国時代には徳川家康が17年間在城した浜松城が築かれ、その後、多くの城主が江戸幕府の要職に就いたことから「出世城」と呼ばれています。市内を流れる天竜川は、長野県の諏訪湖を水源とし、遠州灘へと注ぐ大河です。浜松駅周辺は、天竜川が作り出した扇状地の上に形成されました。明治時代には、天竜川流域の豊富な森林資源を活用し、製紙業が発展しました。織布工場や染色業も盛んになり、産業の基盤が築かれました。その後、楽器産業や輸送機器産業といった分野で技術が発展し、現在も日本有数の工業都市として知られています。特に楽器産業では、世界的な企業が誕生し、「音楽のまち浜松」として国内外に広く知られるようになりました。また、浜松は文化や芸術の発信地としても成長し、浜松国際ピアノコンクールや浜松まつりなど、全国的に有名なイベントが開催されています。浜松市には「やらまいか精神」と呼ばれる独特の気風があります。「やらまいか」は「やってみたい」「挑戦



霧が運ぶ時間



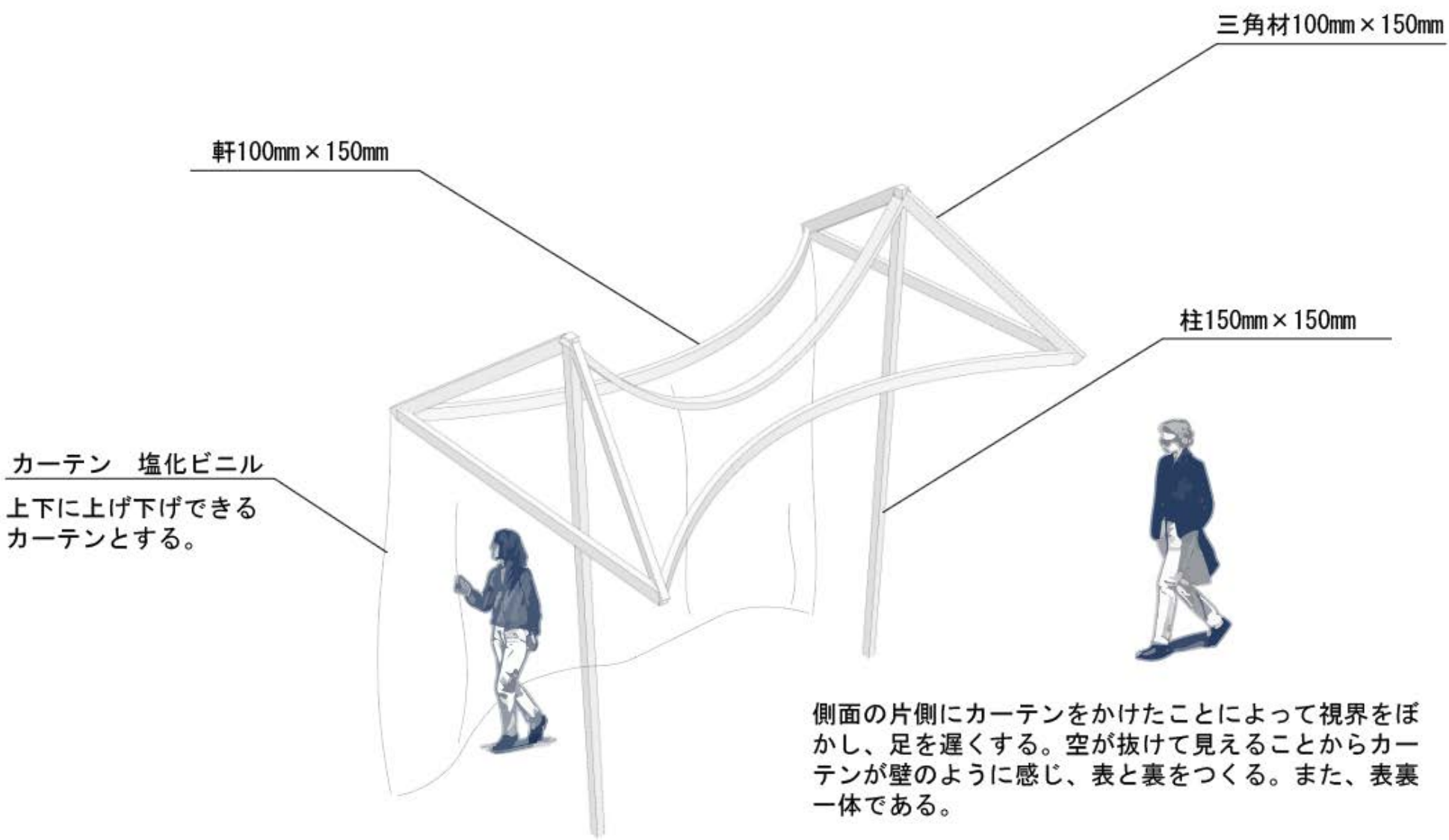


05「提案 / ユニットの説明とダイアグラム」

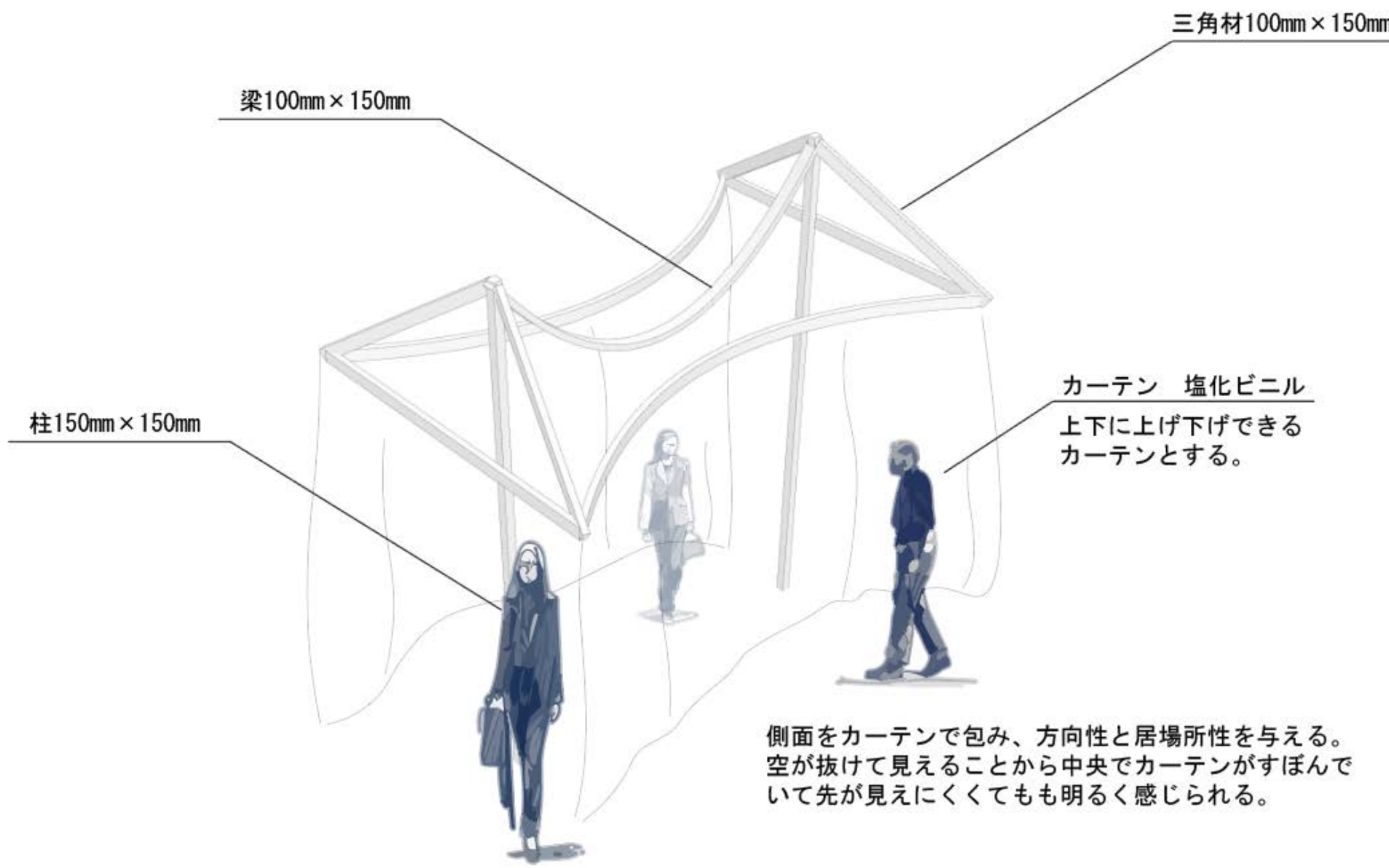
そこで私はユニットを提案します。このユニットは通路や移動の場に置くことを想定しています。柱と梁、屋根部材、カーテンによって構成されています。また、バラバラにして収納することもできます。また、災害時やイベント時には可動でき、時と場にあった形成を可能にしています。

形状としては、構造的に受けられる正三角形の連続体を考えました(Step1)。そして、流動性を生むよう湾曲させ(Step2)、高さや三角形の頂点の比率を変える(Step3) ことによって居場所性を感じられ、空間に差異をもたらせました。また、柱は浮遊感を感じさせるために150mm としました。

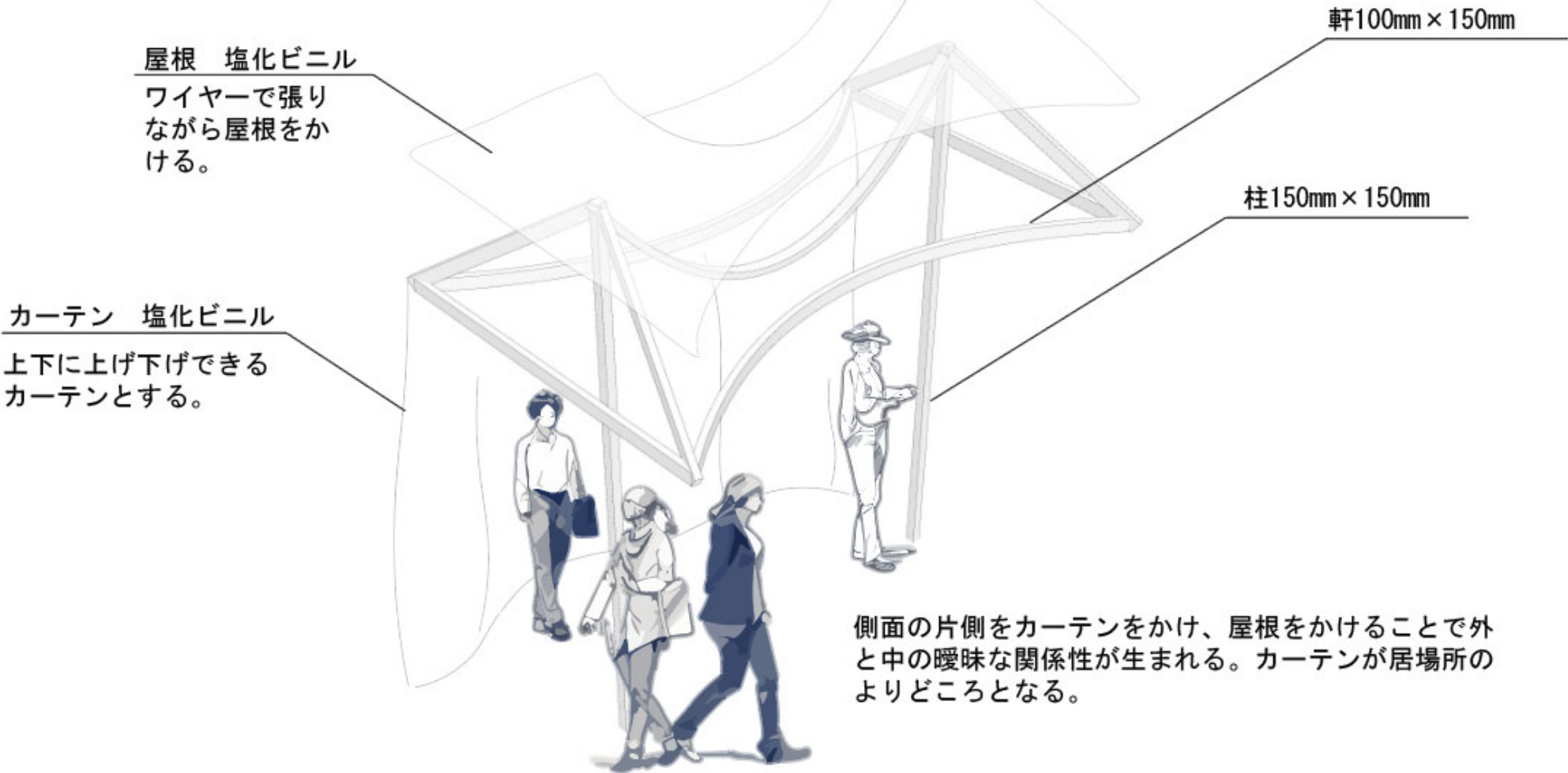
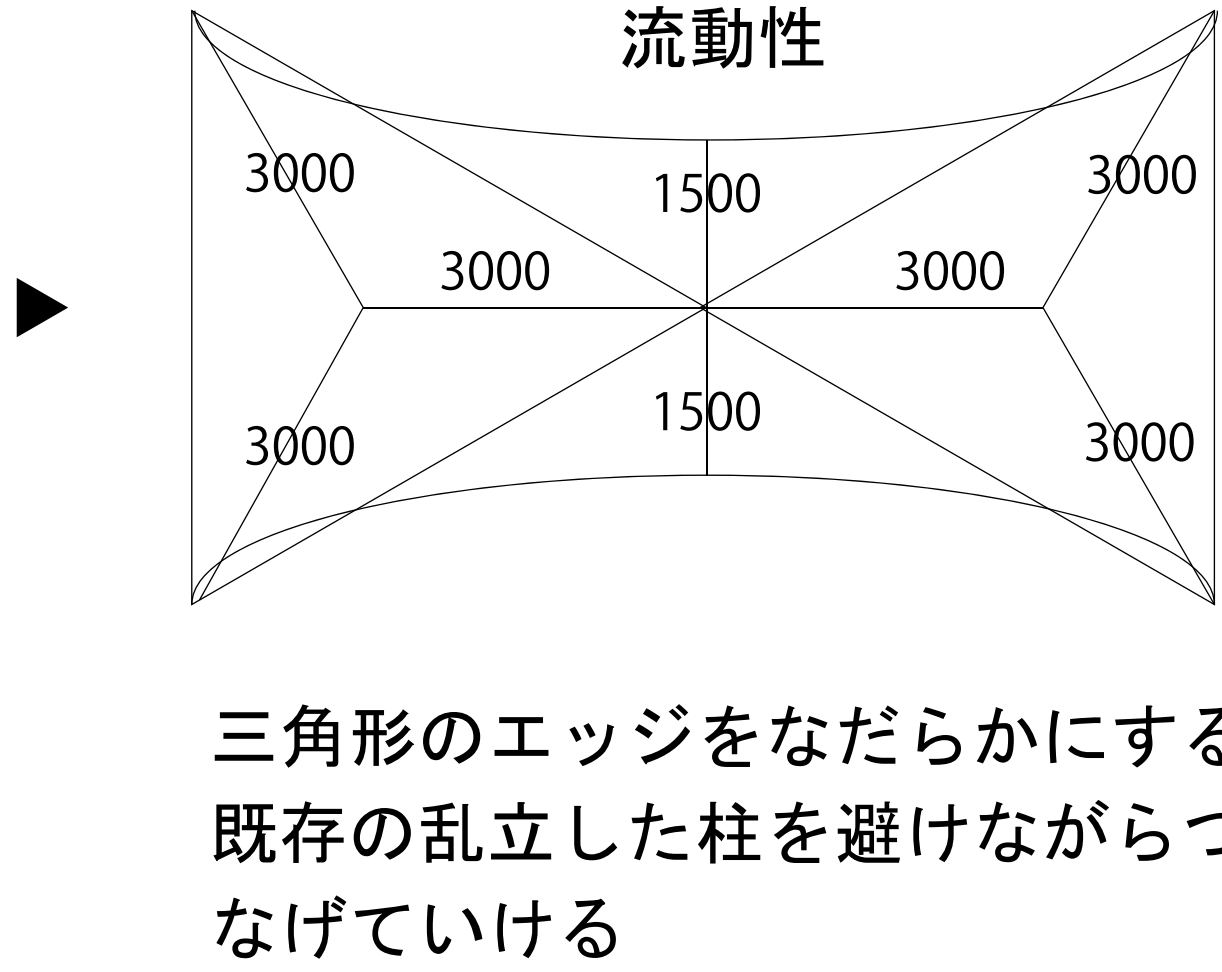
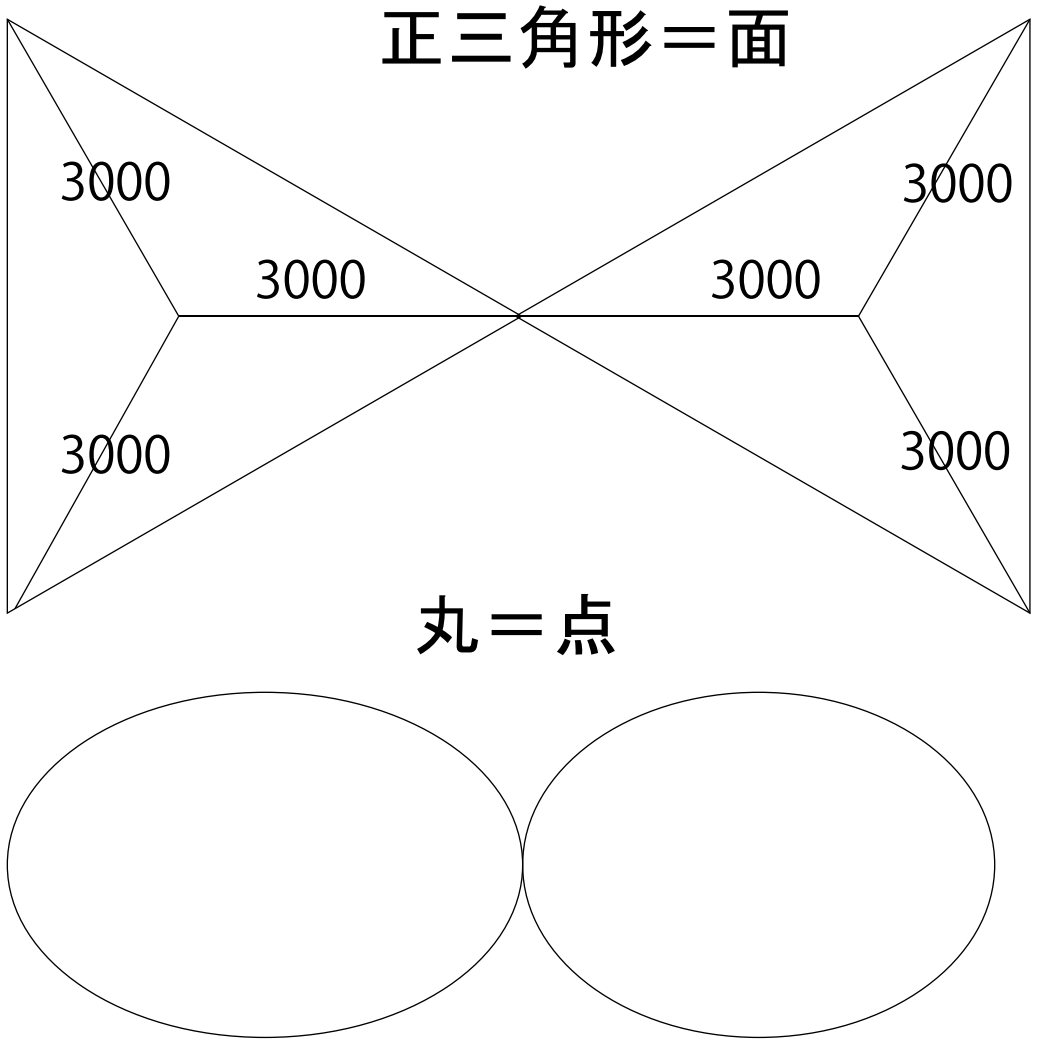
使い方としていくつかのパターンを示します。



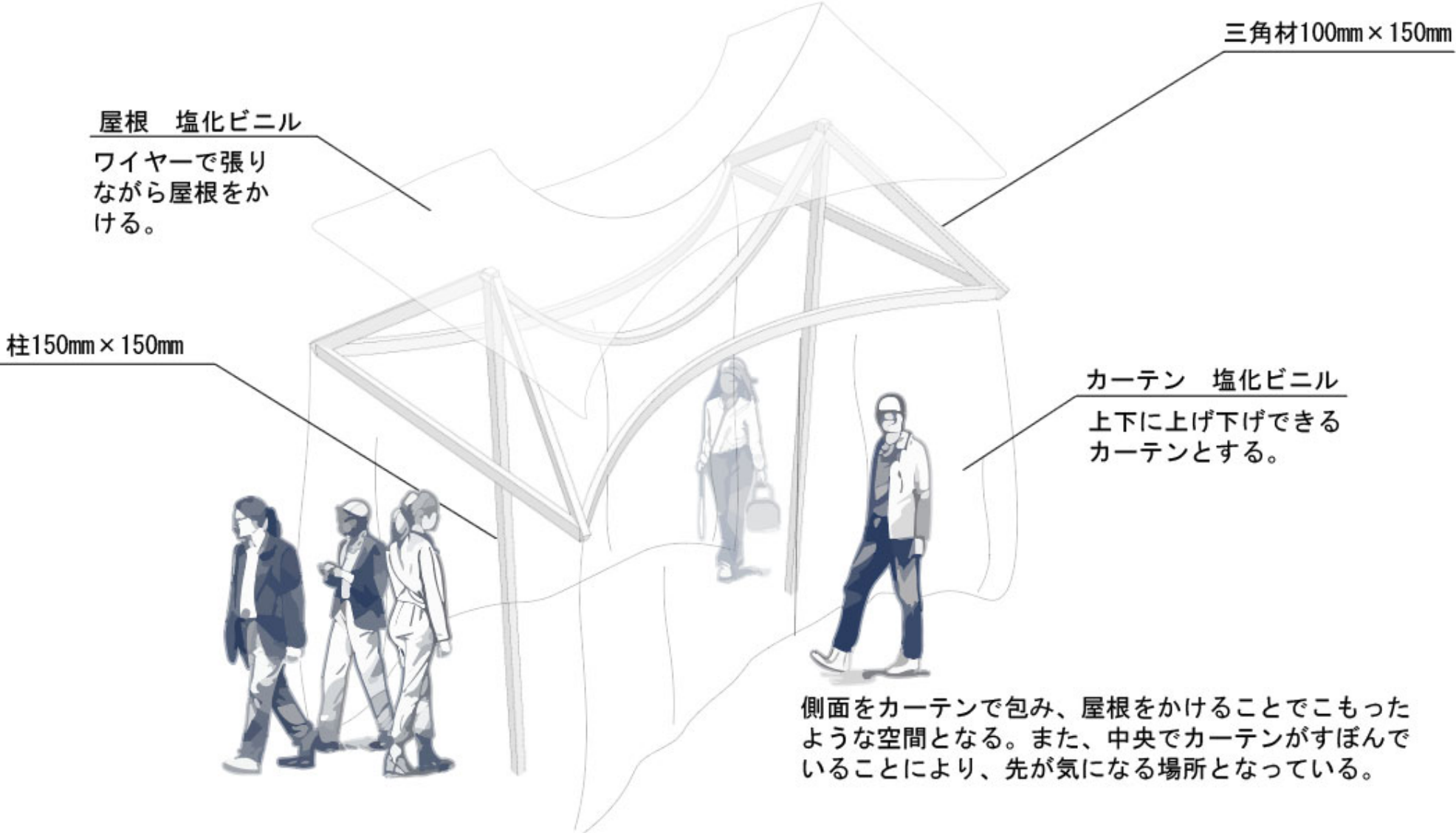
片側カーテン



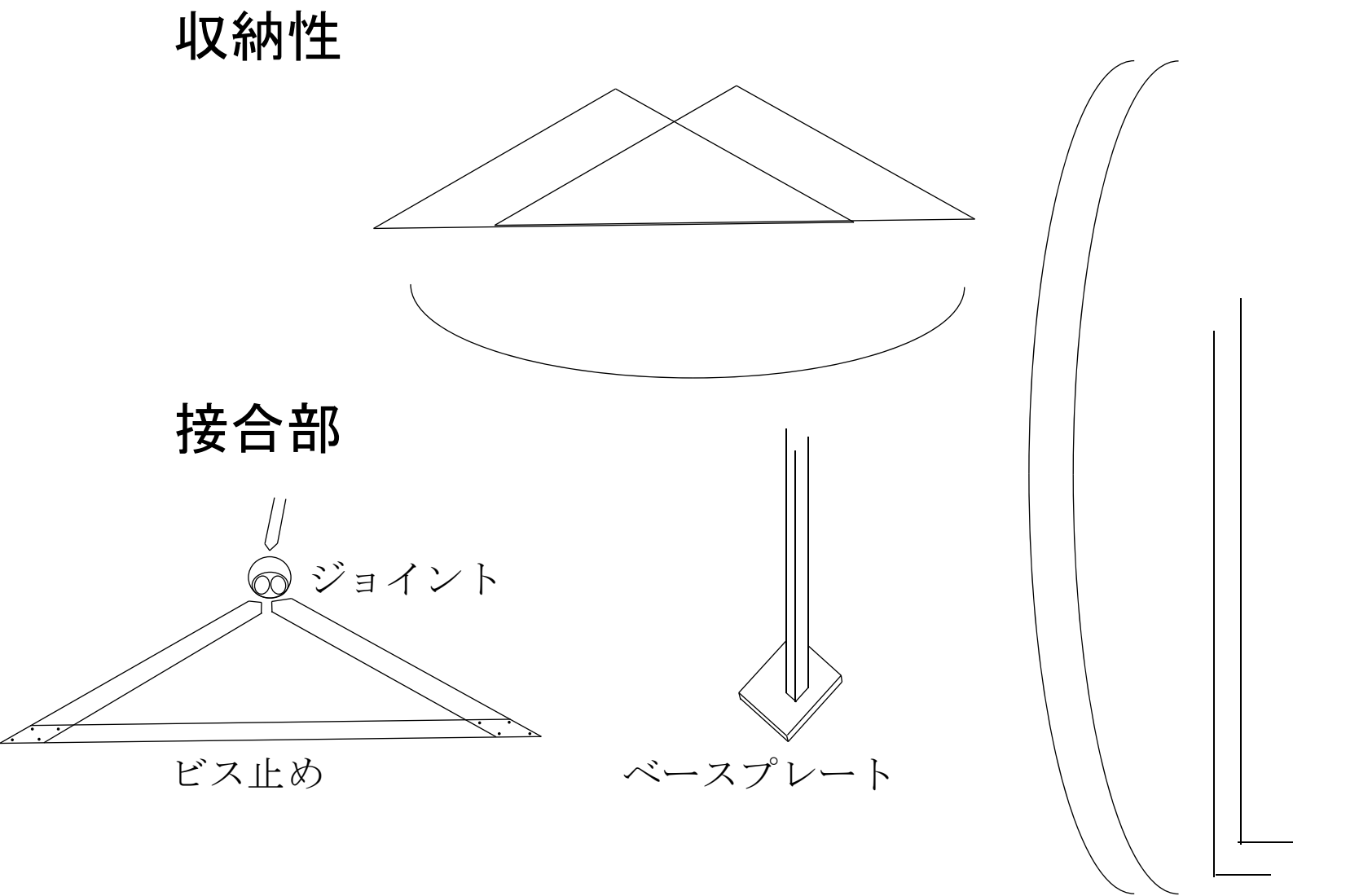
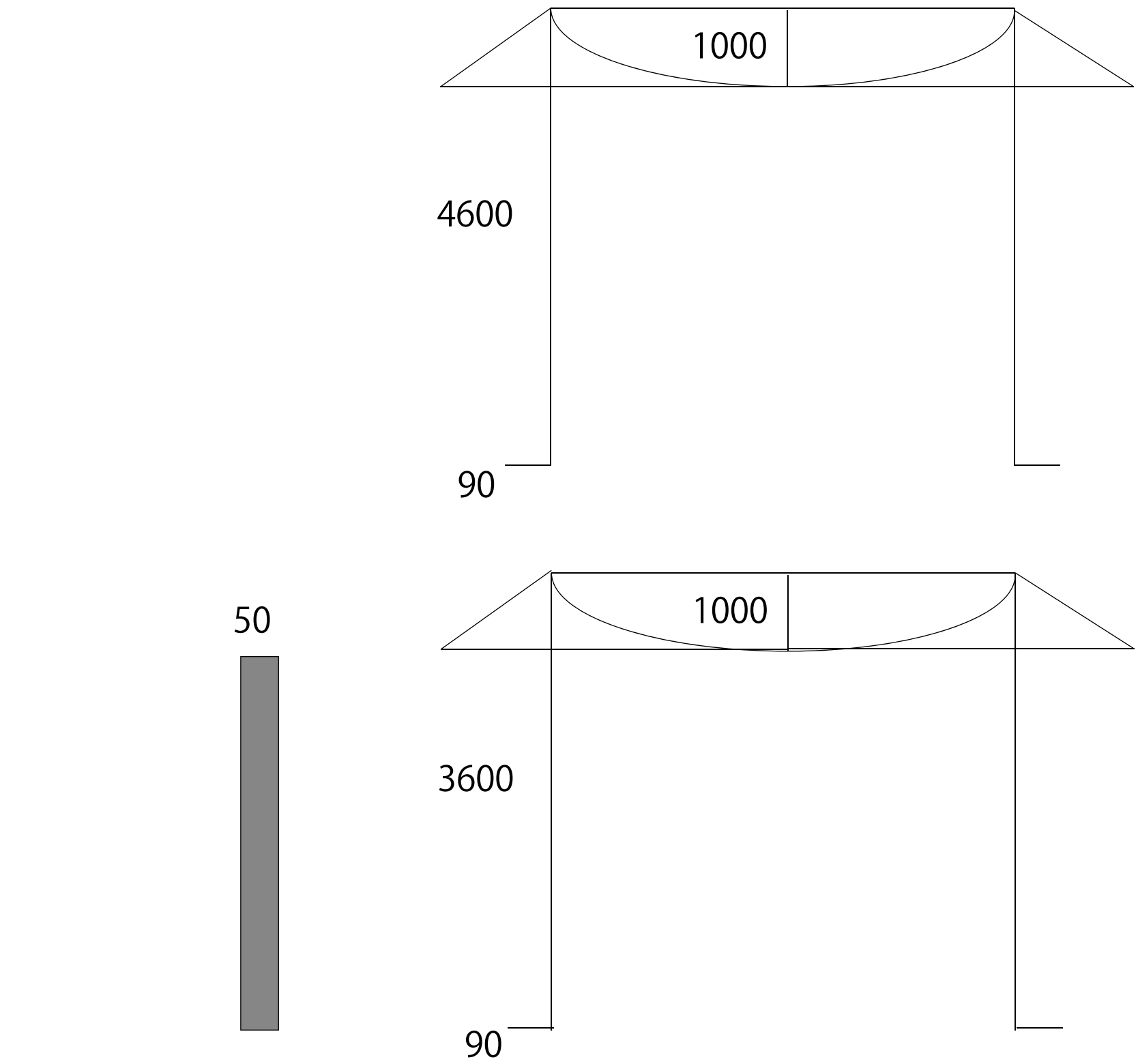
両側カーテン



片側カーテン＋屋根

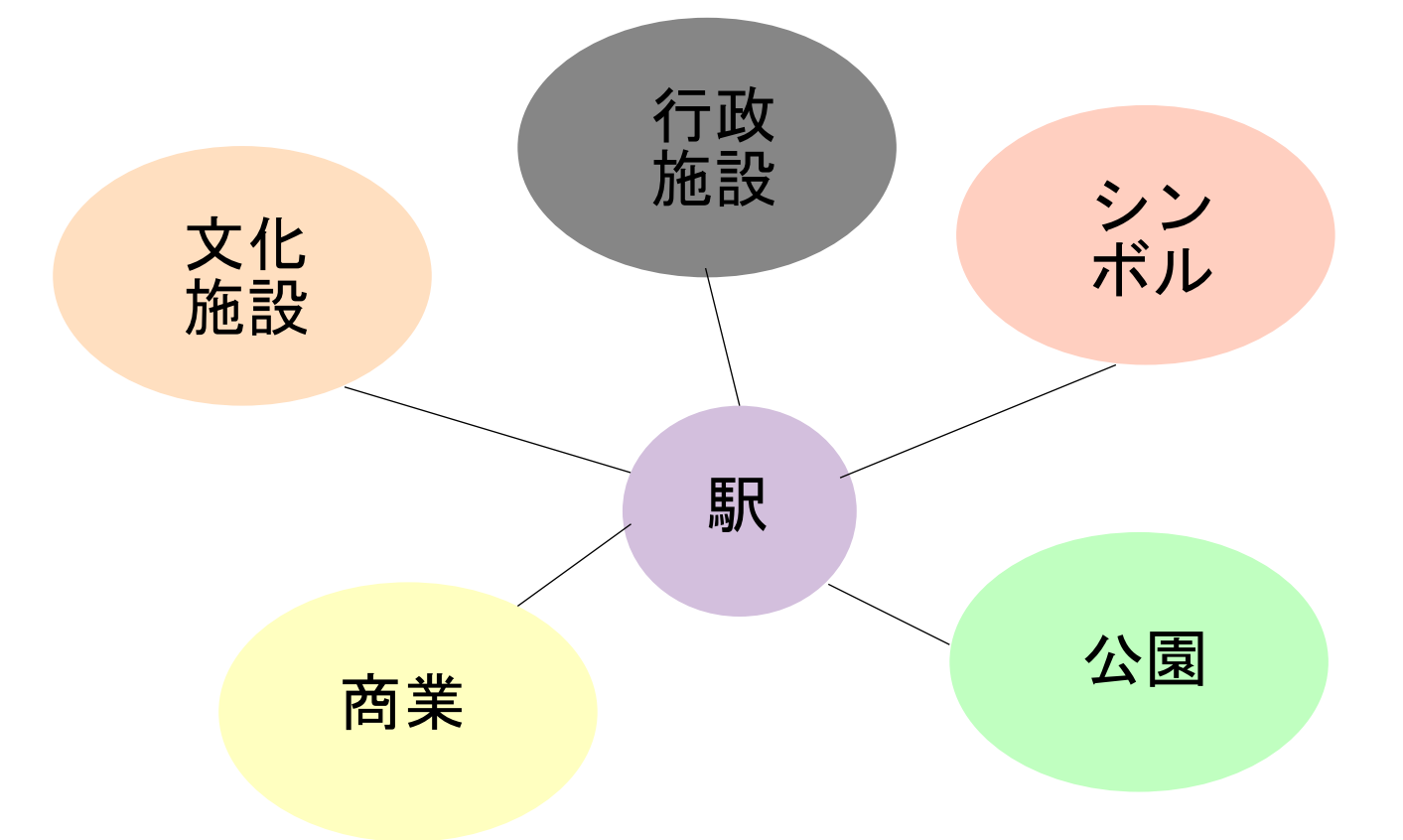
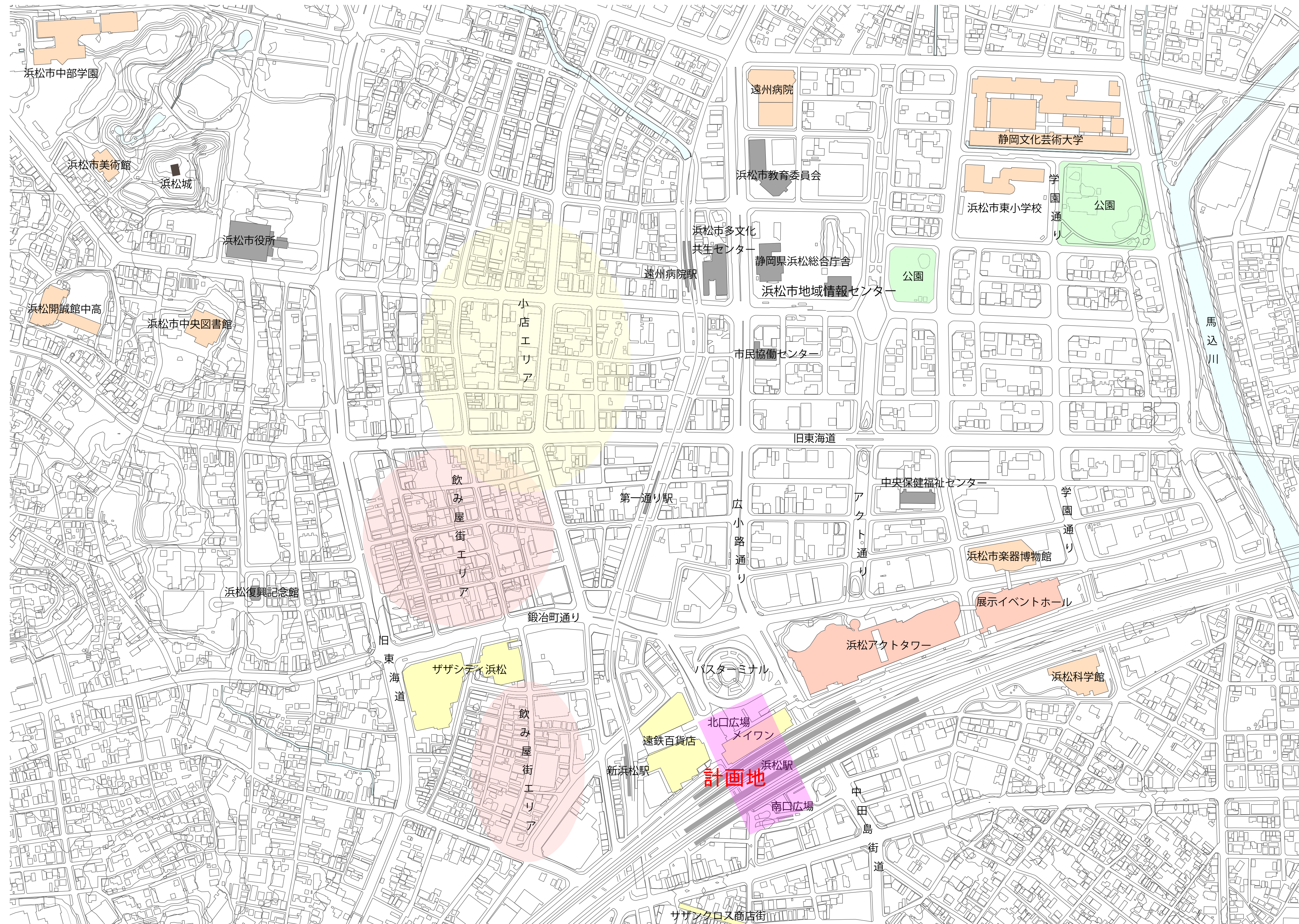
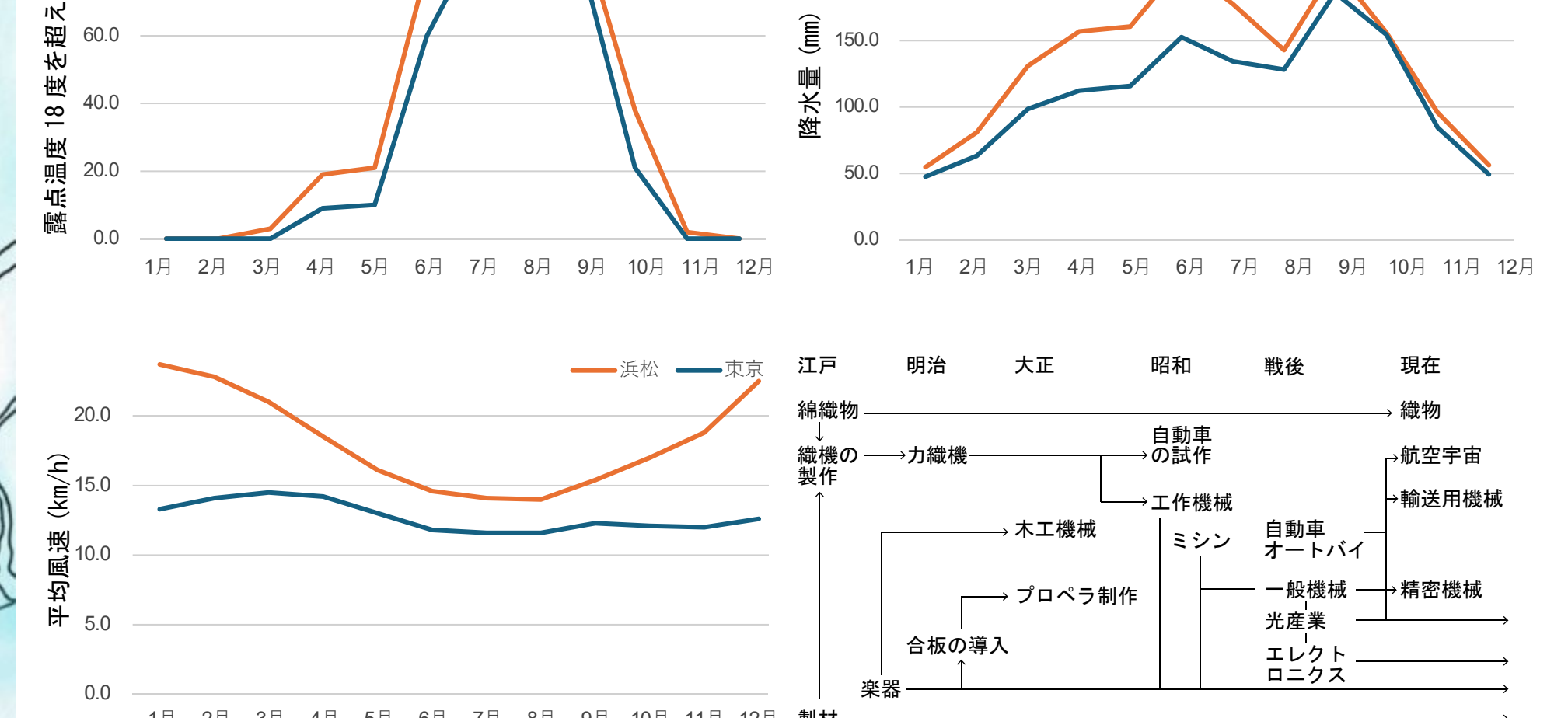


両側カーテン＋屋根



呼ばれる独特の気風があります。「やらまいが」とは、「やってみよう」「挑戦しよう」という意味の方言で、新しいことに果敢に挑戦する精神を表しています。この精神が産業の発展を支え、現在も多様な分野でのチャレンジ精神を育んでいます。こうした浜松市の特徴や文化的要素が融合し、さまざまな人やモノが行き交う、活気あふれる街となっています。

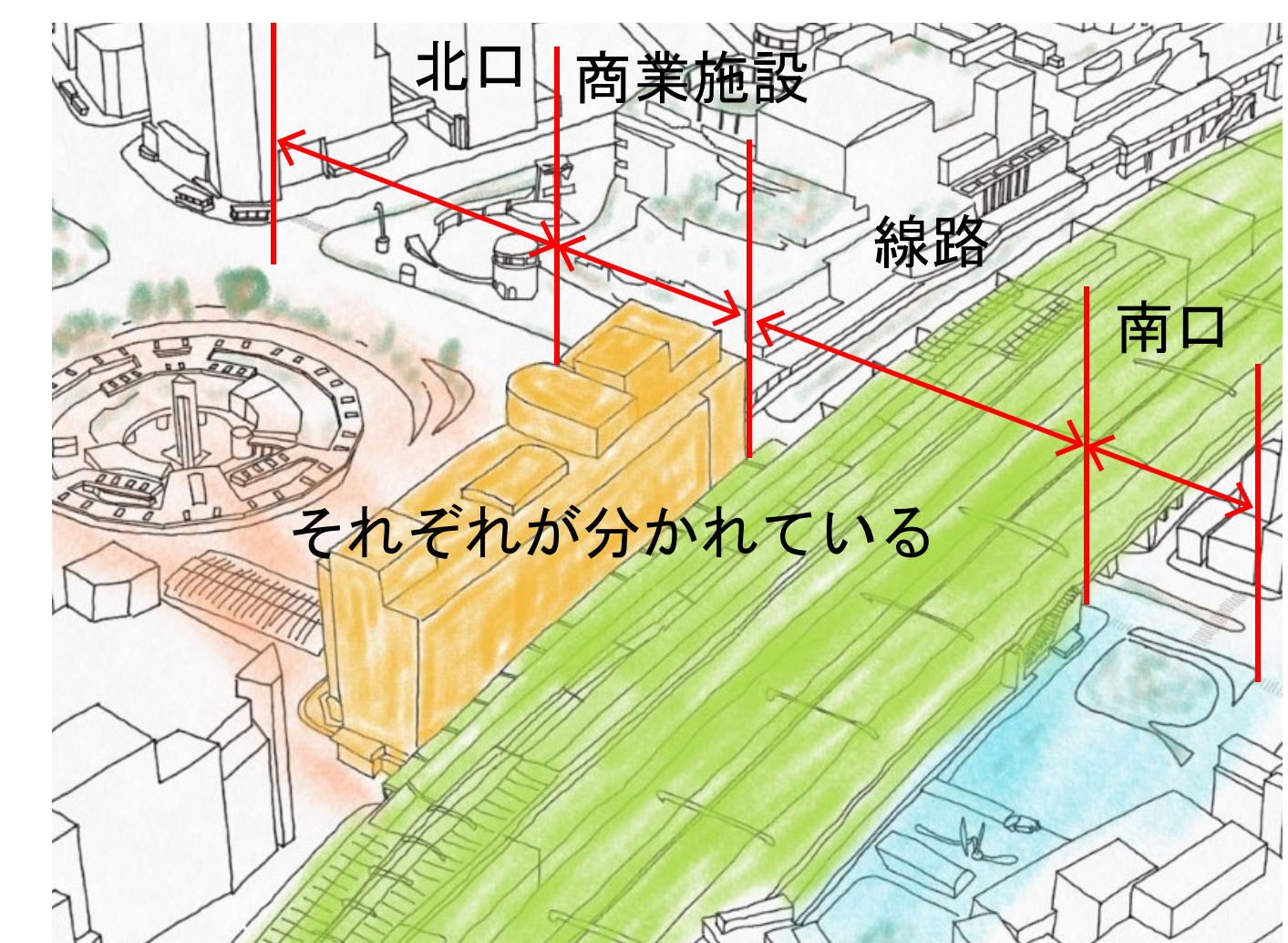
浜松駅周辺は、浜松市の中心市街地として栄え、商業・ビジネス・観光の拠点となっています。メイワンや遠鉄百貨店など、大型商業施設が集まり、ショッピングや飲食を楽しめるエリアです。アクトシティ浜松は、企業の会議やイベントが開催されるビジネス拠点として活用されています。東海道新幹線の停車駅であり、東京や名古屋、大阪へアクセスしやすいため、観光客やビジネスマンが多く訪れます。また、遠州鉄道やバス路線も充実し、市内外への移動がスムーズです。



駅は、移動の拠点として 年齢や目的がバラバラな不特定多数の人が集まる場所です。

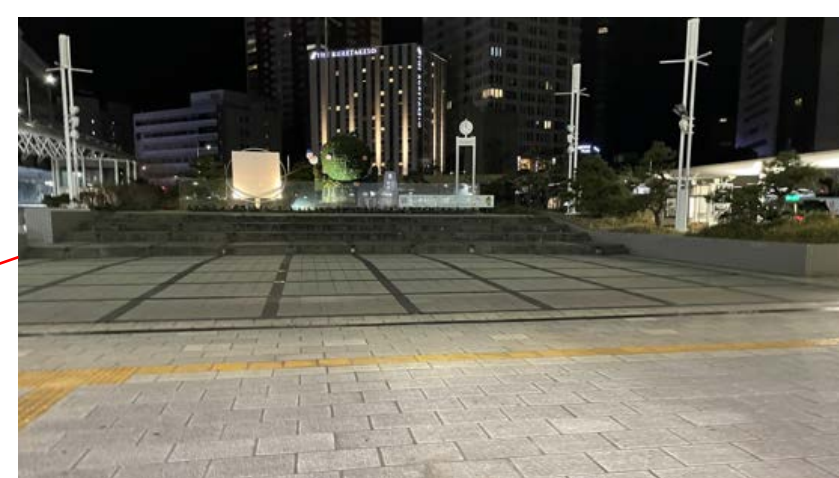
04「現状 / 駅の待つと移動を楽しめる場所に」

南口：オフィスビルや商店街
線路：鉄道施設
商業施設：ショッピングモールや飲食店
北口：商業施設や行政機関、文化施設
移動の場として機能は充実しています。そんな移動の場で身体的に自分の好きな場所を探っていくように歩いて行けたり、滞在ができる空間を提案します。





北口広場西側



北口広場



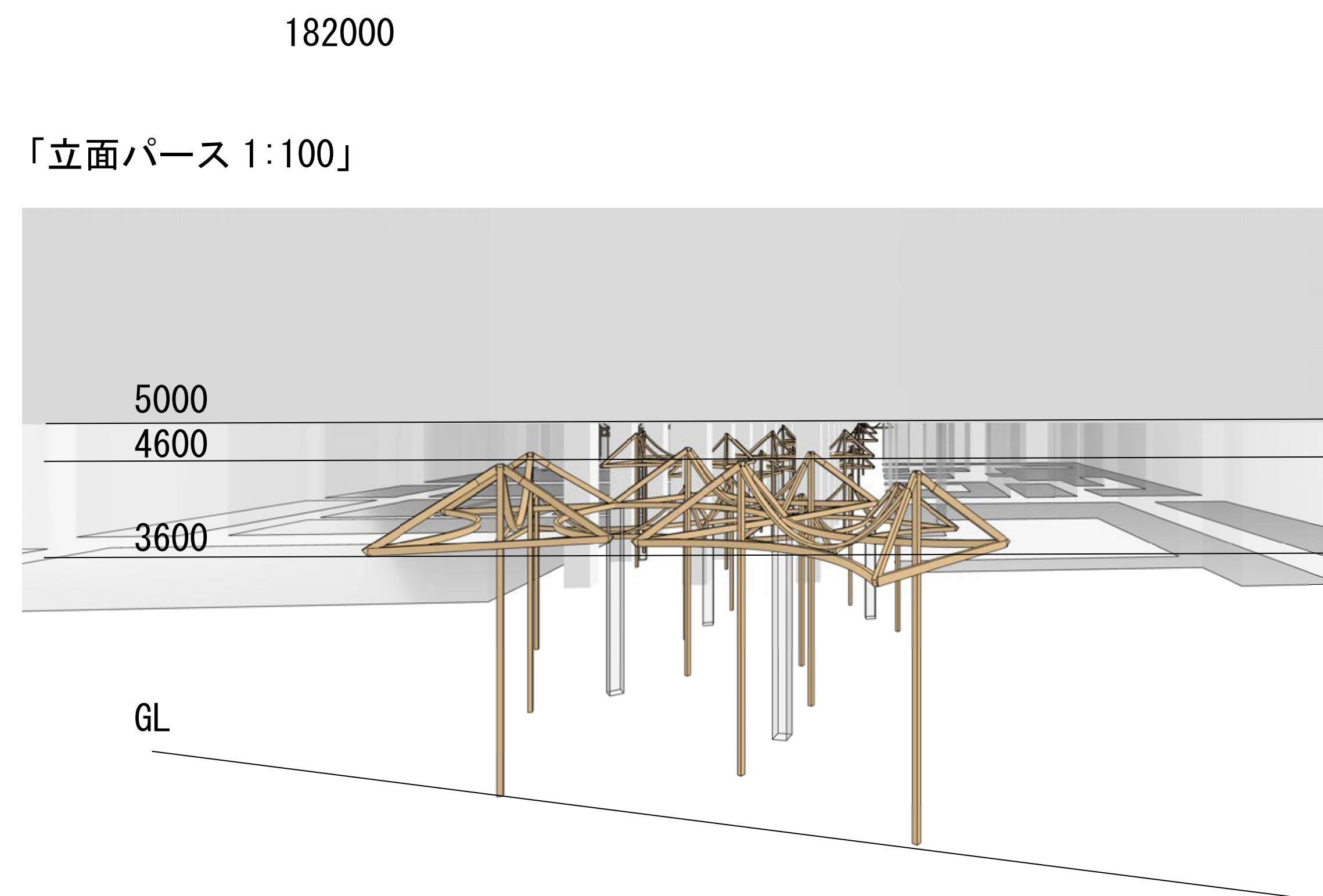
コンコース



昼間



南口広場



「立面パース 1:100」

昭和46年頃のJR線と東海道新幹線の線路は離れていました。その後、線路を高架化し、その下を通行できるようにすることで、南北の移動をスムーズにしようとする計画が進められました。また、当時のコンコース下には、雨風をしのげる待合室が設けられていました。しかし、現在ではそのスペースは商業施設に変わり、ゆっくり座って待つ場所や、駅の雰囲気を楽しめる空間が少なくなっています。



昭和46年頃



JR線と東海道新幹線が離れている

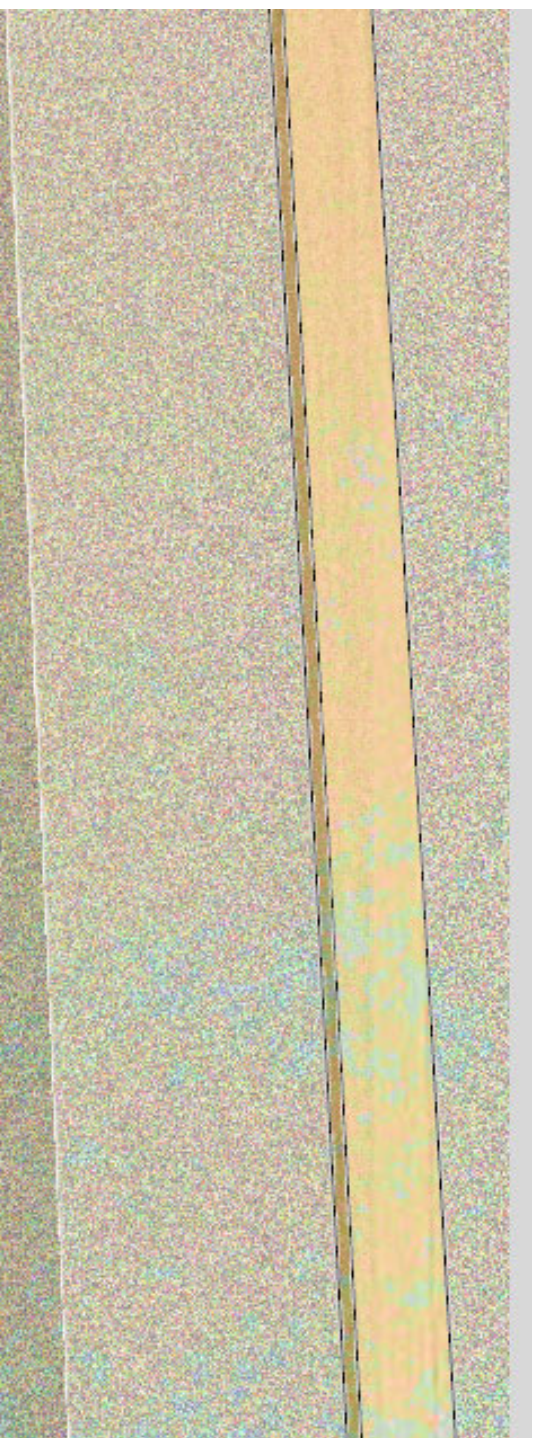
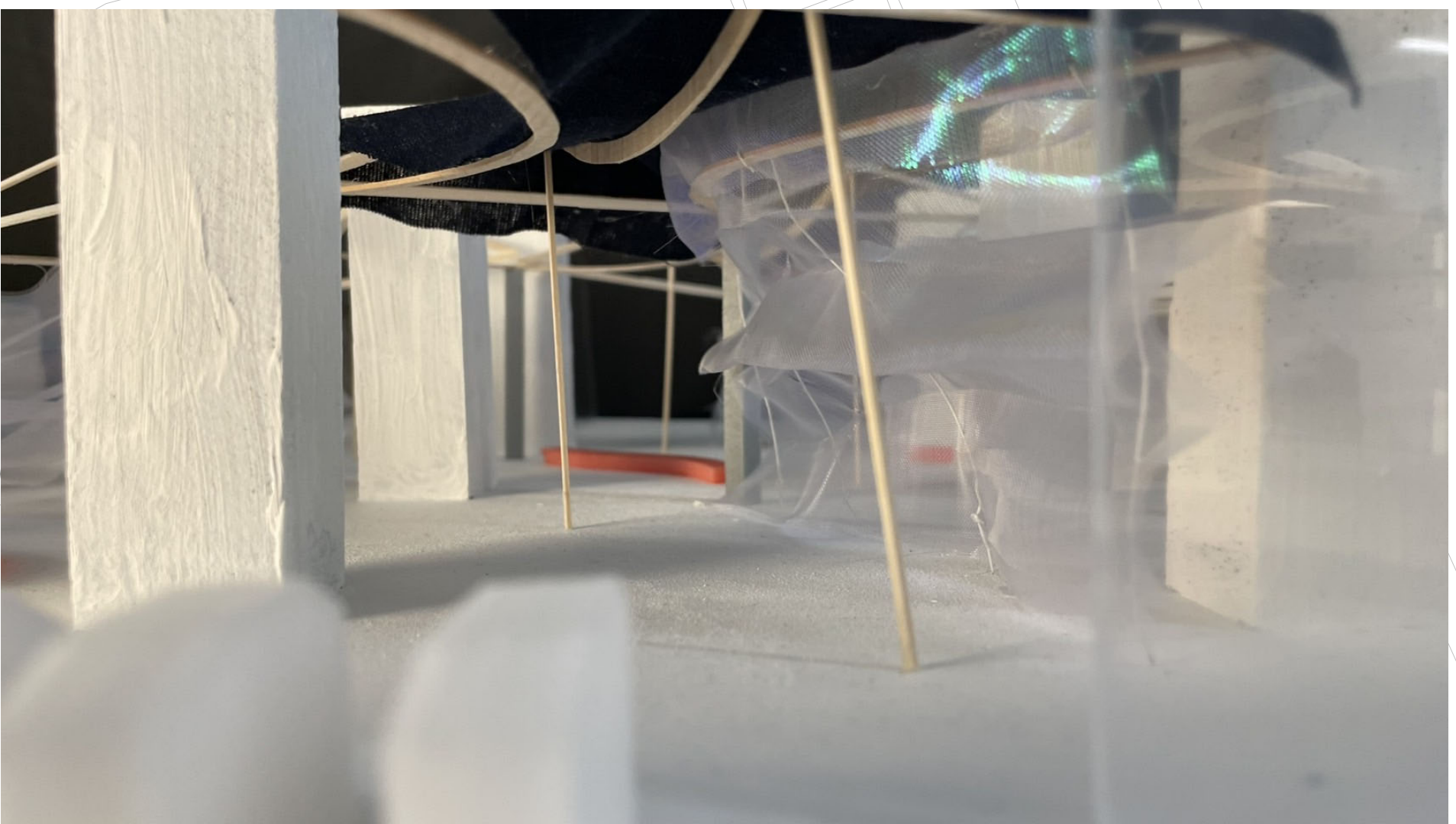
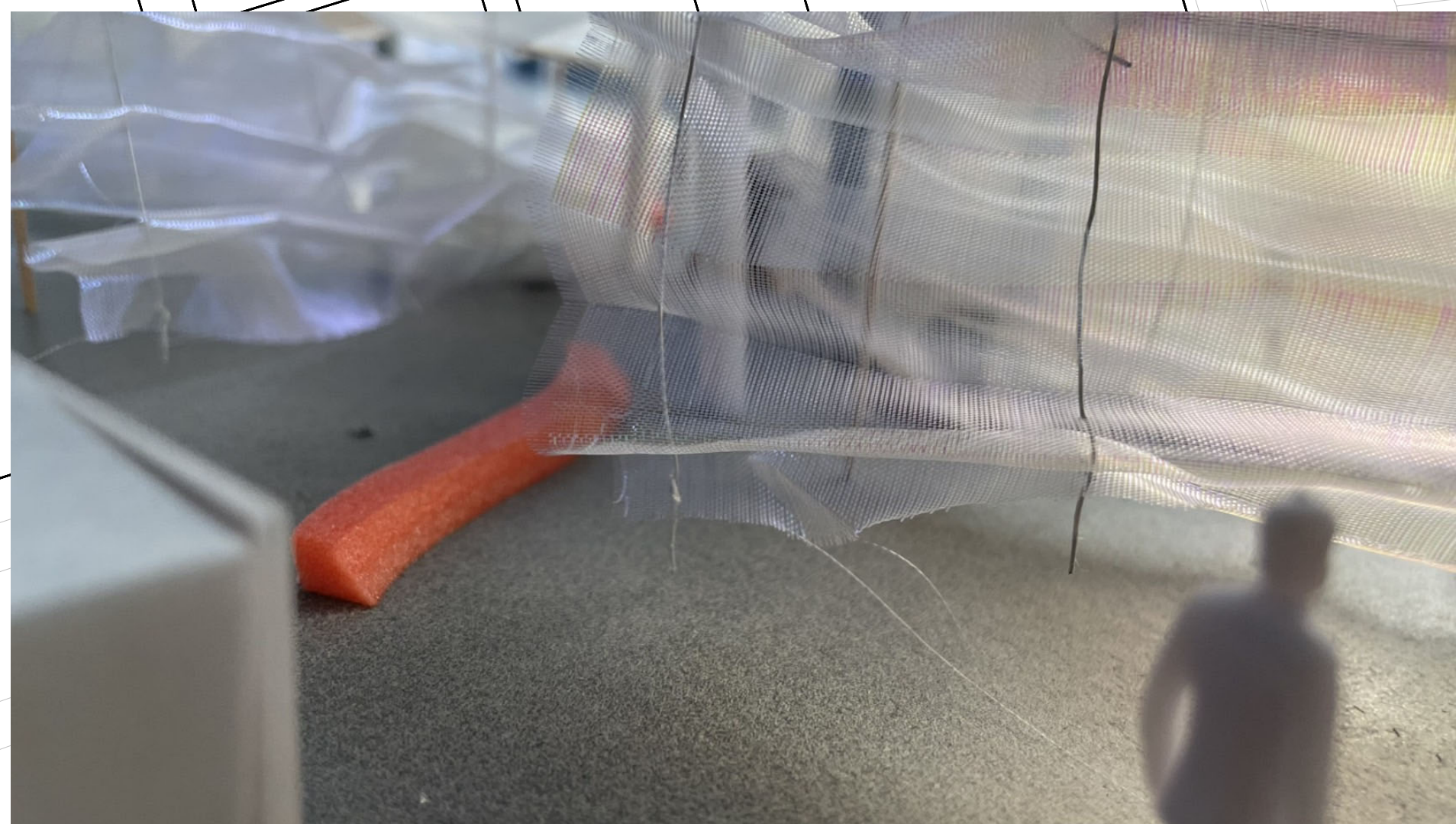
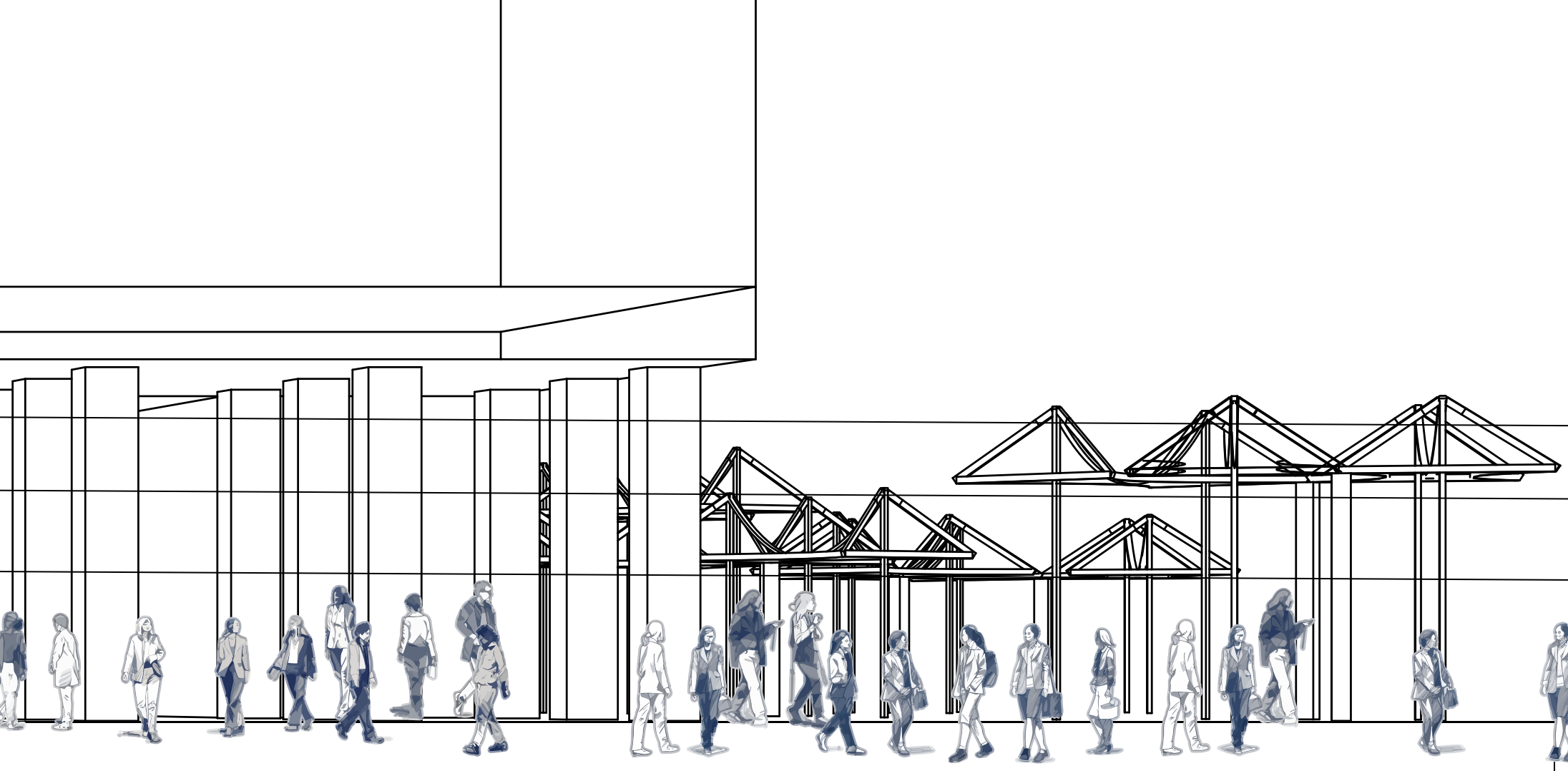
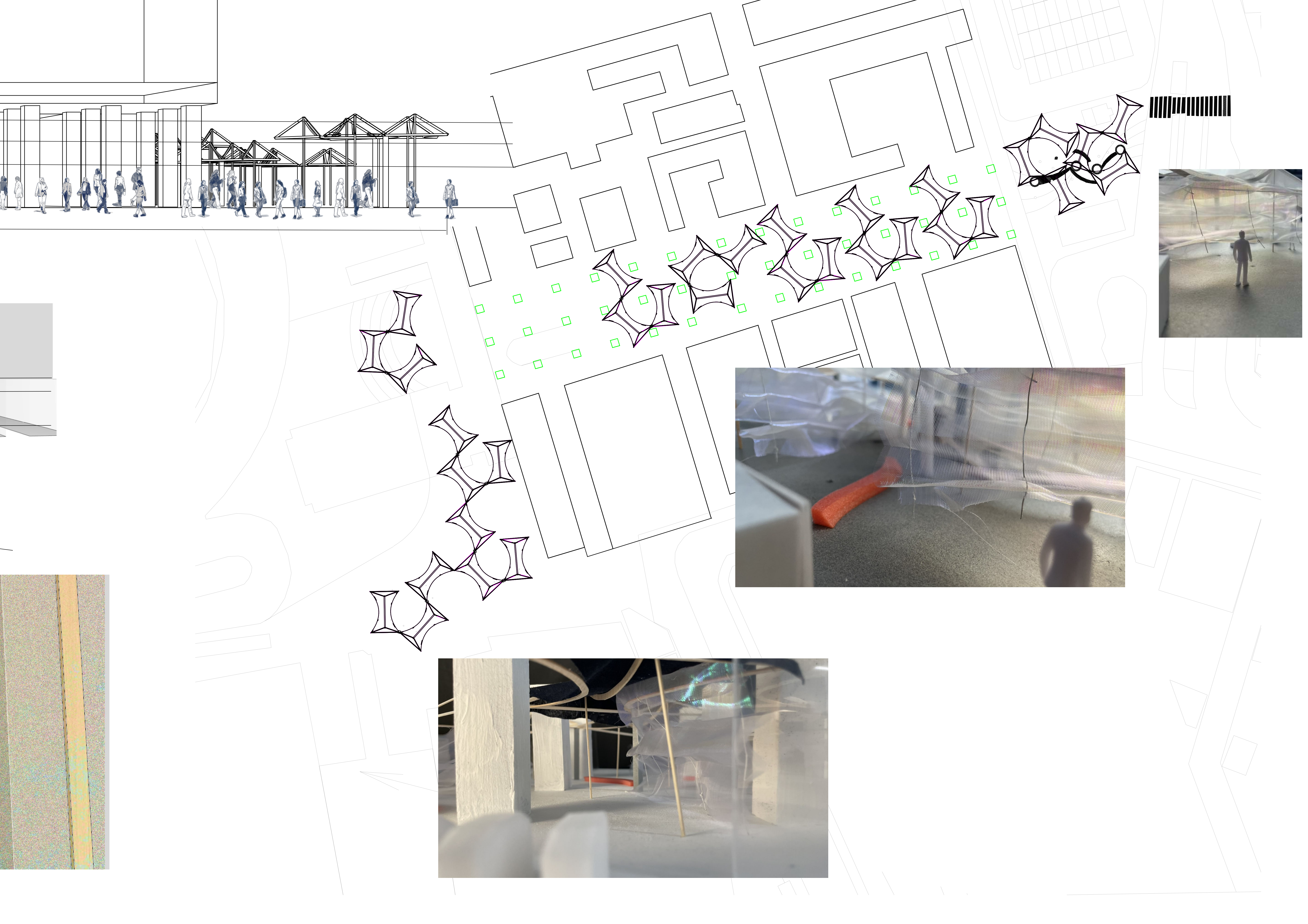


当時のコンコース下



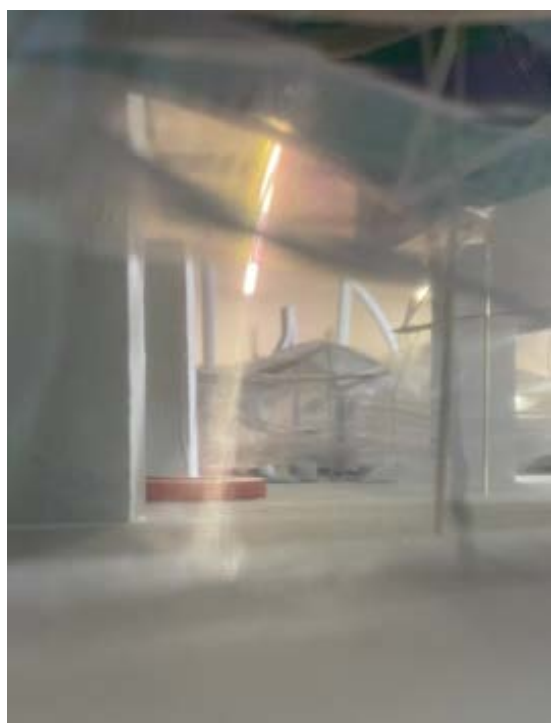
コンコース下の待合室



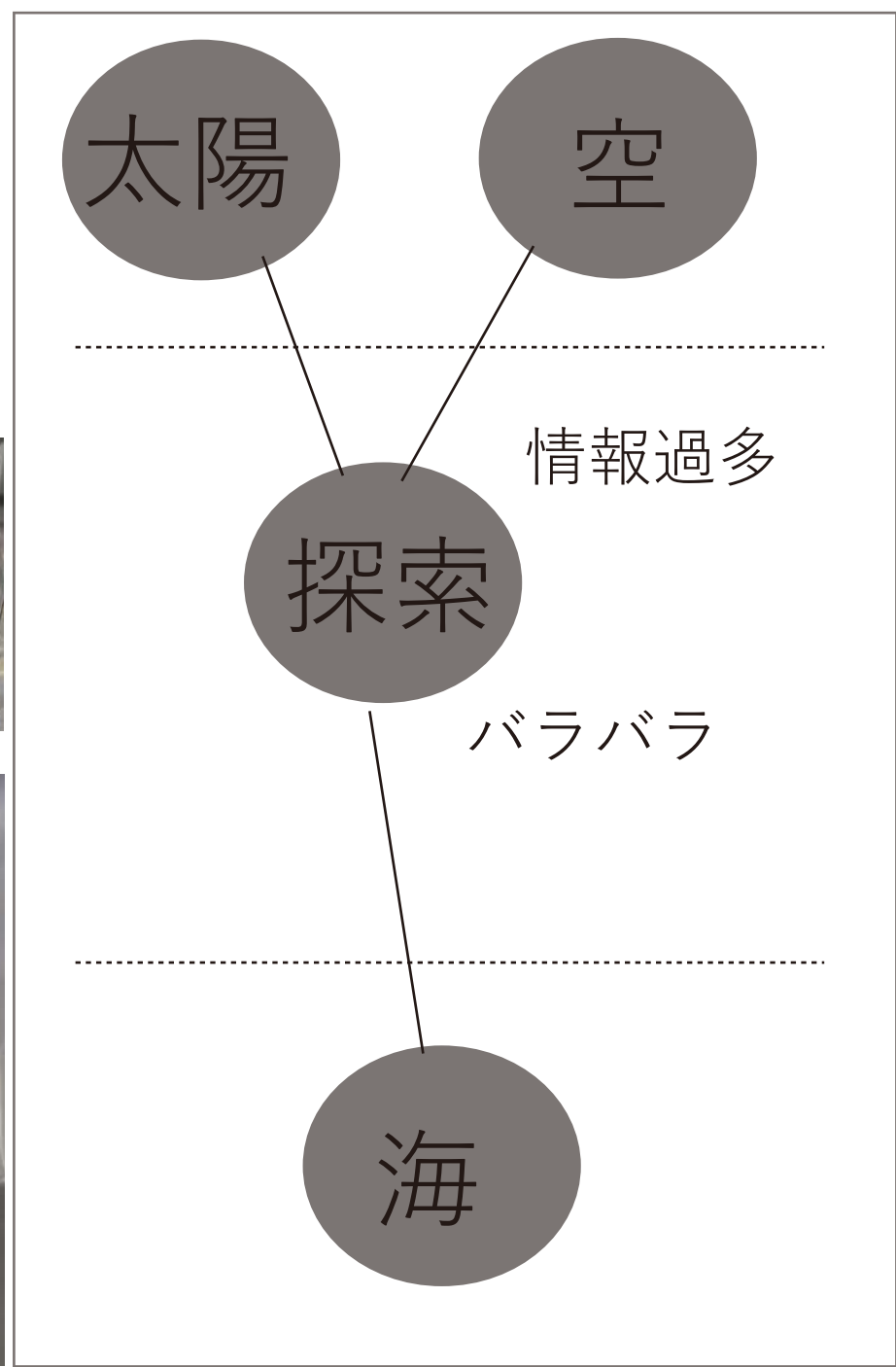
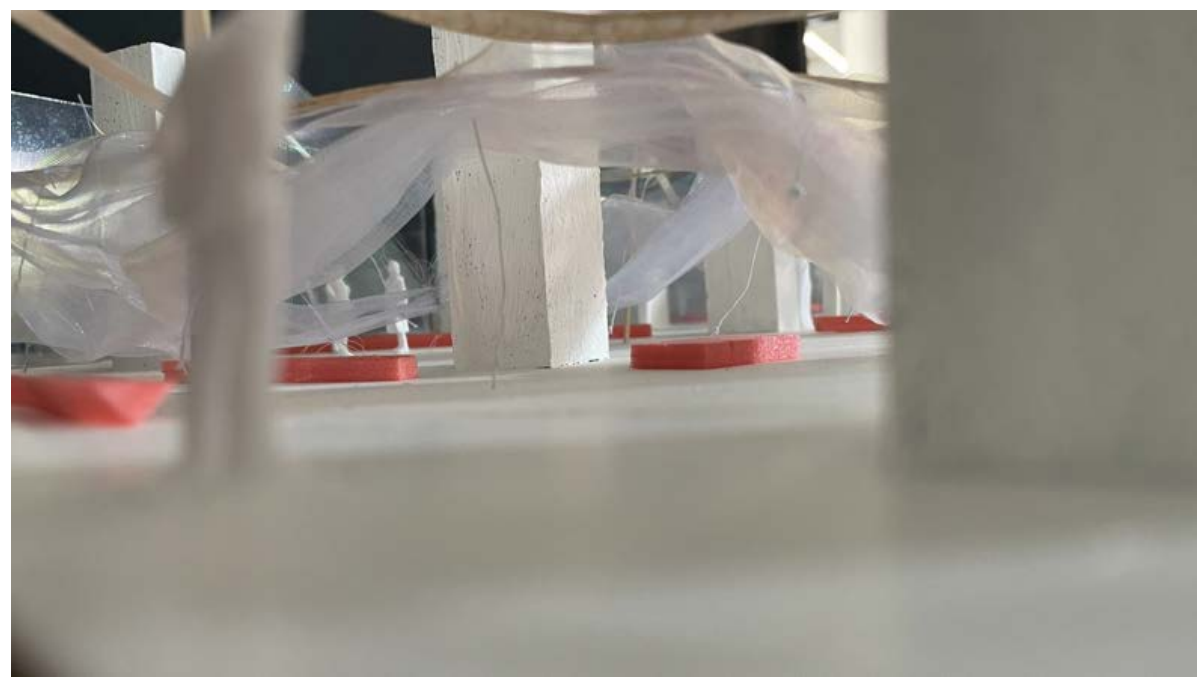
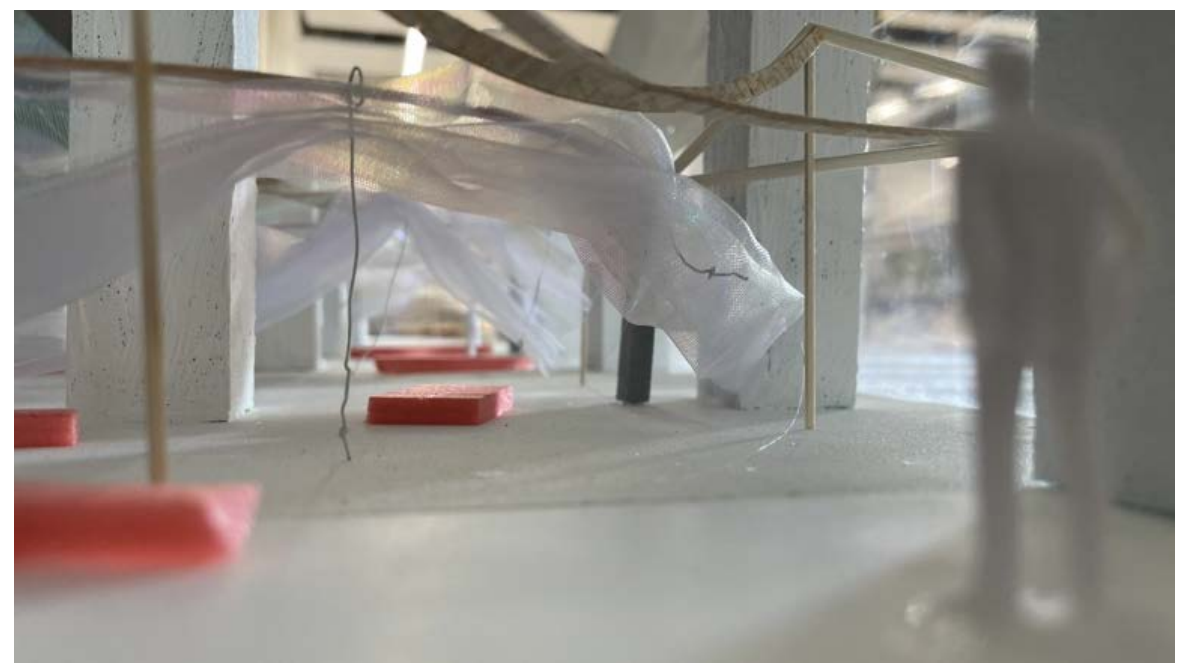




ライブ
演説

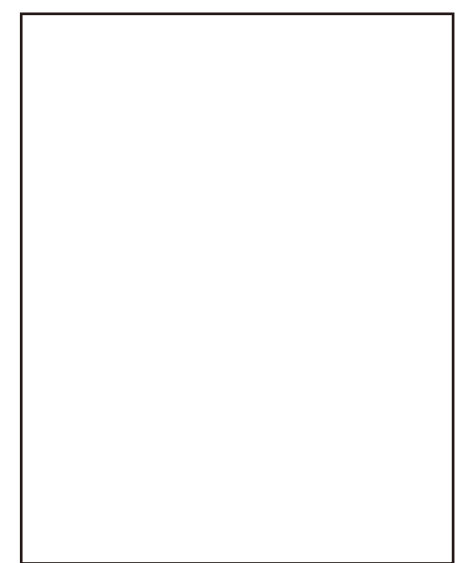


吹奏楽

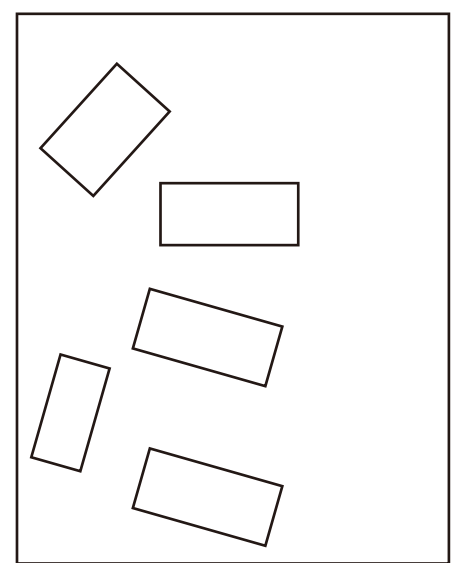


つなぐ

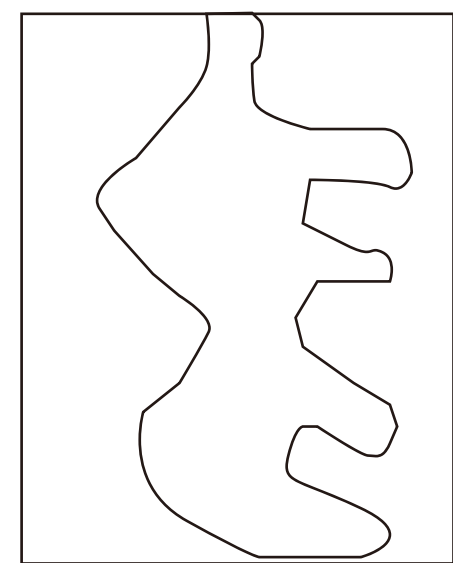
静か、ゆっくり流れている感じ



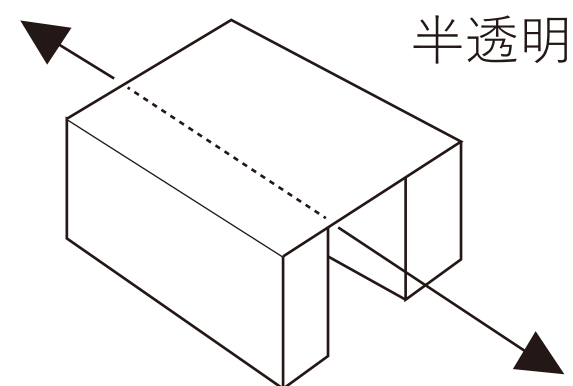
ただ広い
他人事に感じて
寂しい



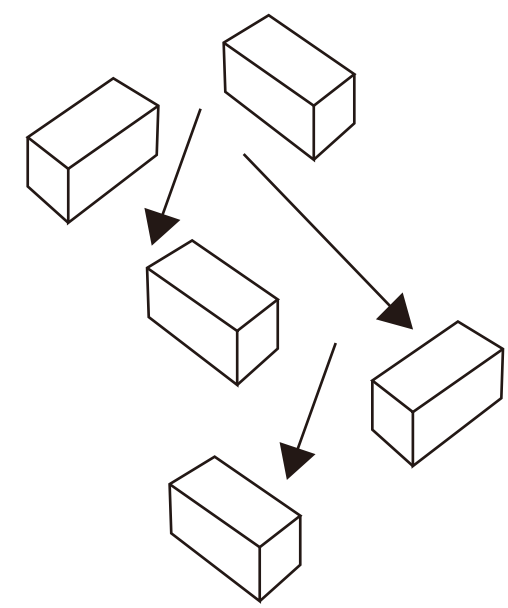
要素ごとに
小さい単位



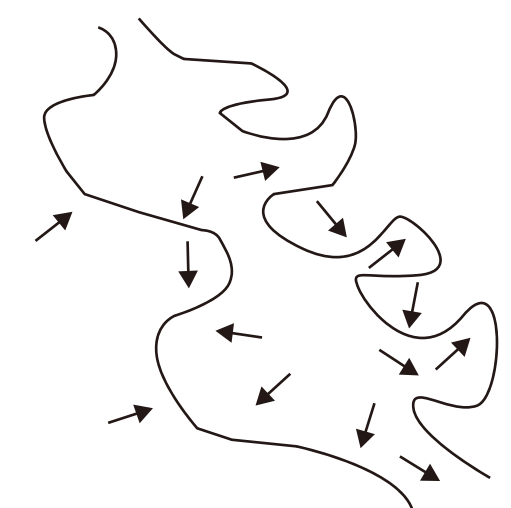
包むもの



半透明



テーマパーク化
バラバラ



包む
覆う
霧が関係性をつくる